

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成19年6月

米子工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	4
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	37

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

米子工業高等専門学校

(2) 所在地

鳥取県米子市彦名町4448

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，

電気情報工学科（電気工学科），

電子制御工学科，物質工学科，

建築学科

専攻科：生産システム工学専攻，物質工学専攻，

建築学専攻

(4) 学生数及び教員数（平成19年5月1日現在）

学生数： 1,106人

単位：人

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	合計
機械工学科	48	40	41	41	42	212
電気情報工学科	45	44	36	44	39	208
電子制御工学科	45	39	42	45	41	212
物質工学科	45	49	36	40	41	211
建築学科	44	44	42	36	42	208
計	227	216	197	206	205	1,051

※電気情報工学科は4年まで進行。5年は電気工学科

専攻科課程	1年	2年	合計	
生産システム工学専攻		20	15	35
物質工学専攻		5	2	7
建築学専攻		10	3	13
計		35	20	55

教員数： 77人

単位：人

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
一般科目	9	9	6	0	0	24
機械工学科	3	4	1	2	0	10
電気情報工学科	3	6	1	1	0	11
電子制御工学科	4	4	1	1	0	10
物質工学科	5	3	1	2	0	11
建築学科	6	2	0	3	0	11
計	30	28	10	9	0	77

2 特徴

米子工業高等専門学校（以下「本校」という）は、昭和39年に機械工学科・電気工学科・工業化学科の3学科構成で設置された。順調な経済成長の下支えにより、山陰地区でも建築技術者養成の要望が起こり、昭和44年に建築学科を増設した。その後、急速に発展したメカトロニクス分野の中堅技術者育成に対する社会的要請に応え

るため、昭和62年、電子制御工学科を増設し、現在の5学科体制が整った。

平成6年には、ファインケミカルとバイオテクノロジーに即応する人材養成のため、工業化学科を、材料工学コースと生物工学コースの2コースを有する物質工学科へと改組した。また、平成16年には電気工学科を慢性的な不足状態にある情報技術者養成を行うことができるよう情報関連授業を拡充した電気情報工学科とした。

平成16年度には、生産システム工学専攻、物質工学専攻及び建築学専攻の3専攻からなる専攻科を設置し、準学士課程5学科・専攻科課程3専攻、総学生定員1,040名の現体制となった。

本校の目的は、学則第1条に「教育基本法」の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定めている。この目的のために、「ものづくり」に興味関心をもつ中学卒業生を受け入れ、低学年では社会人、技術者としての基礎教育と「ものづくり」や実験・実習を通して基礎力の育成と専門に対する動機付けを行い、高学年では専門の体系的な教育を行い、基礎力を育成し、実験・実習や演習で応用力やコミュニケーション力、地域の実務経験者の講義や校外実習（インターンシップ）で課題探求・解決能力（発展力・創造性）を持つ実践的な技術教育を目指している。さらに、高度な技術者を育成するため2年間の専攻科教育にも力を入れている。

また、本校では、技術者として社会活動する際に必要な人間性向上のために、種々の課外活動を活発に行っている。体育系及び文化系クラブ・同好会を、それぞれ18部及び20部置き、指導教員が活動を支援している。クラブ・同好会活動のほかに、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティションなどへの学生の参加も積極的に支援しており、優秀な成績を修めてきたことも特筆すべき点の一つである。これらの課外活動で優秀な成績を修めた者に対しては校内表彰を行い、その功績を称え、活動を奨励している。

II 目的

1. 学則に定めている目的

- ・学則第1条 「米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」
- ・学則第47条 「専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。」

2. 教育理念

「我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う」を教育理念として掲げている。

3. 養成する人材像

本校では、教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしている。なお、これらの養成する人材像は、準学士課程、専攻科課程に共通のものである。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

4. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めている。

- ① 技術者としての基礎力
- ② 持てる知識を使う応用力
- ③ 社会と自らを高める発展力
- ④ 地球の一員としての倫理力
- ⑤ 社会とかかわるためのコミュニケーション力

5. 達成目標

本校では、上記の学習・教育目標に基づき準学士課程卒業時及び専攻科課程修了時において、学生が具体的に身に付けておく能力として以下のような達成目標を定めている。

準学士課程学生の達成目標

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

専攻科課程学生の達成目標

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のもとに解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。

⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

6. 学科及び専攻の教育目標

本校では、中期計画において、各学科および各専攻の教育目標を以下のように定めている。

(準学士課程)

・一般科目

人格の形成を促し、社会人・国際人として必要な知識・技術を付与するとともに、専門教育を受けるための基礎を築くことを目標とする。

・機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

・電気情報工学科（電気工学科）

平成16年度より電気工学科を電気情報工学科に時代の要請に基づき名称変更する。いずれも電気主任技術者認定校の資格は継続維持するとともに、電気・情報通信関連の幅広い分野で活躍できる十分な基礎学力を具備した実践的技術者の養成を目標とする。

・電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータによる制御技術を習得し、制御回路、制御プログラム、機械システムの開発、設計ができる実践的技術者の養成を目標とする。

・物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

・建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

(専攻科課程)

・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的技術者の養成を目的とする。

・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発技術者を養成することを目標とする。

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校における研究活動を活性化するとともに、科学技術の革新や情報化などに対応した高度な実践的技術者の養成を行い、かつ産学連携を推進して地域産業の振興に貢献するため、以下の目的を設定する。

- (1) 研究活動の過程及び成果を本校の学生教育へ反映させ、教育水準の維持・向上を図ること。
- (2) 産学連携による研究活動により、地域の活性化、地域産業の発展に貢献すること。
- (3) 共同研究・受託研究などによる外部資金獲得を活性化し、研究基盤を強化すること。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①：高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、研究活動を活性化し、技術進化に対応した高い水準の教育を行うことができるよう、以下に記すような研究体制や支援体制を整備してきた。

本校における産官との連携を図った研究活動は、地域共同テクノセンター（以下テクノセンターと記す。資料A-1-①-1）を拠点として行われている（資料A-1-①-2，別添資料A-1-①-1）。テクノセンターは、平成5年度に「システム化技術教育・開発センター」として設置され、平成16年度に地域連携、地域貢献活動により特化した組織「地域共同テクノセンター」となった（資料A-1-①-3）。センター長1名、副センター長1名、センター長補2名、及びコーディネーター1名で構成しており、地域企業との共同研究・受託研究の窓口としての機能をもっている。地域企業からの技術相談もテクノセンターにて受付、相談内容に適した教員が対応できる体制となっている。また、これらの窓口機能にとどまらず、各種イベントへの協力等、多岐にわたる活動を行っている（資料A-1-①-21「平成18年度地域共同テクノセンター活動記録」，訪問調査時に提示）。

テクノセンターを窓口として本校と連携する組織には、鳥取県内を中心とした地域企業からなる「米子高専振興協力会」（資料A-1-①-4，資料A-1-①-5）があり、平成18年度末現在、会員企業数は76社で、研究費の支援、企業見学会、技術交流会などの活動を行っている（資料A-1-①-6，資料A-1-①-21，訪問調査時に提示）。また、平成18年度には、(財)鳥取県産業振興機構や米子市と包括連携協定を提携し、より円滑な産官学連携活動が可能な体制を整えた（資料A-1-①-7～8）。さらに、独立行政法人鳥取県産業技術センターと技術研究連携を行っている（資料A-1-①-21，訪問調査時に提示）。

学内における研究支援組織としては、テクノセンターの他に、外部研究資金及び産学連携に関する事務手続きを行う総務課企画協力係、予算管理を行う総務課財務係、物品の購入・管理を行う総務課契約係などがある（資料A-1-①-9，別添資料A-1-①-2）。また、技術職員組織である技術教育支援センターが、所属する技術職員の技術分野に応じて研究の技術支援を行っている（資料A-1-①-10）。

本校は5つの専門学科と一般科目からなり、機械工学、電気情報工学、電子制御工学、物質工学、建築学及び文科系を含めた一般教養といった幅広い研究分野をカバーしている。本校全教員の各専門分野、研究分野及び技術相談可能な分野は、テクノセンター発行の冊子「産官学連携のススメ」（資料A-1-①-11，別添資料A-1-①-3）で学内外へ公表・配布している。さらに、テクノセンターが平成15年度と16年度に発行した「技術シーズ集」（資料A-1-①-12，別添資料A-1-①-4）では、全教員がそれぞれ取り組んでいる研究課題の他に、産学連携を促す目的で産業界への提案型の研究テーマとその内容を記載した。この「技術シーズ集」は冊子体として学内外へ配布し、さらに本校Webページにも掲示して学外から閲覧可能な状態にある。平成19年度には新たな「技術シーズ集」へ更新・発行予定である。また、本校教員の研究分野等の情報は、独立行政法人科学技術振興機構「研究開発支援総合ディレクトリREAD」<http://read.jst.go.jp/>（資料A-1-①-13）にも登録してあり、検索可能である。

資料A-1-①-1 地域共同テクノセンター規則

米子工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則

(設置)

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第2条 センターは、企業との連携・交流を推進するとともに、地域に対して本校の教育資源を提供するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 企業等との共同研究及び受託研究等の研究開発推進に関すること。
- (2) 企業等に対する技術指導及び技術相談に関すること。
- (3) 公開講座等地域における人材育成に関すること。
- (4) その他地域との連携及び交流等に関すること。

(職員)

第3条 センターに、次の職員を置く。

- (1) 地域共同テクノセンター長
- (2) 地域共同テクノセンター副センター長
- (3) 地域共同テクノセンター長補
- (4) その他必要な職員

2 前項に掲げる職員は、校長が任命する。

3 地域共同テクノセンター長（以下「センター長」という。）は、校長の命を受け、センターを統括する。

4 地域共同テクノセンター副センター長（以下「副センター長」という。）は、センター長を補佐する。

5 地域共同テクノセンター長補は、センター長及び副センター長を補佐し、センターの専門的な事項に関する業務を処理する。

(任期)

第4条 前条第1項第1号から第3号までに掲げる職員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 前項の職員に欠員が生じた場合の後任職員の任期は、前任者の残任期間とする。

(報告)

第5条 センター長は、センターの運営状況に関して、定期的に学科長会議に報告するものとする。

(事務)

第6条 センターに関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則（平成16年3月31日規則第18号）

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 米子工業高等専門学校システム化技術教育・開発センター規則（平成5年3月8日制定）は、廃止する。

3 米子工業高等専門学校システム化技術教育・開発センター運営委員会規則（平成9年3月19日制定）は、廃止する。

附 則（平成19年4月1日規則第8号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

資料A-1-①-2 平成18年度 共同研究一覧

平成18年度 外部資金等受入審査について (平成18年4月1日～平成19年3月14日)

1. 共同研究

(単位:円)

No.	申請書 受付 年月日	研究者名		申請者	研究課題	研究経費	うち間接 経費	備考
		所属学科等	氏名					
16	18.10.13	物質工学科	小川 和郎	(株)片木アルミニウム製作所	高精度高効率溶解燃焼システムへの廃食油再利用システムの構築	700,000	35,000	
15	18.10.4	機械工学科	山口 顕司	(株)ウメカワ	水溶性加工液の循環利用を促進するリサイクルビジネスの創出	530,000	26,500	
14	18.8.21	物質工学科	小田 耕平 青木 薫	(有)アクティマム	窒化チタンを原料とする可視光応答型光触媒スプレー剤の開発	600,000	30,000	
13	18.8.18	物質工学科	青木 薫 藤井 雄三	(株)氷温研究所	氷温技術を用いた発酵製品の開発	200,000	10,000	
12	18.7.10	物質工学科	小田 耕平 青木 薫	(有)松井オートサービス	新規無電解メッキ液の開発	200,000	10,000	
11	18.7.3	電子制御工学科	中山 繁生	(株)アイズ	「妖怪神社」へのロボットの導入	300,000	15,000	
10	18.6.30	機械工学科	足立 新治	ファミリー(株)	マッサージチェアの高機能及び多機能化に関する研究	150,000	7,500	
9	18.6.23	建築学科	熊谷 昌彦	長岡技術科学大学	地方都市における地震被災者の緊急避難所としての学校の役割に関する研究	308,000	15,400	
8	18.6.19	物質工学科	青木 薫	(株)カノン	繊維裁断屑を用いた多用途高機能フィルター材料の開発	750,000	37,500	
7	18.6.15	物質工学科	藤井 雄三	(有)マリン環境研究所	海洋環境に適応した防汚塗料の研究開発	480,000	24,000	
6	18.5.29	物質工学科	池田 彰	(株)森久エンジニアリング	人工光を用いた植物工場に関する研究	600,000	30,000	
5	18.5.16	機械工学科 建築学科	森田 慎一 稲田 祐二	フジ化成工業(株)	低環境負荷型外断熱工法の研究開発	651,000	32,550	
4	18.4.26	物質工学科	小田 耕平 青木 薫	美保テクノス(株)	廃瓦トータルリサイクルシステムの研究開発	530,000	26,500	
3	18.4.24	物質工学科	小田 耕平 青木 薫	(株)栗谷テクノス	アスベストの現位置無害化処理システムの開発	300,000	15,000	
2	18.4.21	物質工学科	池田 彰	多久電機(株)	マイクロバブルによる各種気体の溶存性と用途の検討	500,000	25,000	
1	18.4.3	電子制御工学科	雑賀 憲昭	松下電工(株)	生体内光伝播現象の検証	200,000	10,000	
合 計						6,999,000	349,950	

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料A-1-①-3 地域共同テクノセンターの沿革

米子工業高等専門学校地域共同テクノセンターの沿革

平成5年 システム化技術教育・開発センター設置。

「研究開発部門」と「研究協力・技術相談部門」の2部門で構成。

平成8年 「情報ネットワーク部門」を新設, 3部門体制となる。

平成9年 情報処理センターを「情報教育部門」として統合, 4部門体制となる。

平成10年 内部組織を「研究開発部門」と「情報教育部門」の2部門へ整理統合。

平成16年 「研究開発部門」が地域共同テクノセンターとして独立。

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料A-1-①-4 米子高専振興協力会会則

米子工業高等専門学校振興協力会会則

(名称)

第1条 この会は、米子工業高等専門学校振興協力会という。

(目的)

第2条 この会は、米子工業高等専門学校の振興発展に協力するとともに、地域の文化、学術の発展に資することを目的とする。

(事業)

第3条 この会は、前条の目的達成のため次の事業を行う。

- (1) 米子工業高等専門学校と会員との交流促進
- (2) 米子工業高等専門学校の振興発展への協力体制の樹立及び実行
- (3) その他目的達成に必要な事業

(組織及び会員)

第4条 この会は、次に掲げる会員により組織する。

- (1) 本会の主旨に賛同する者
- (2) 行政代表者

(顧問)

第5条 この会に顧問を置き、米子工業高等専門学校長及び、本会に貢献のあった者をもって充てる。

(役員)

第6条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 5名 以内
 - (3) 理事 20名以内
 - (4) 監事 2名
- 2 理事及び監事は総会において選出し、会長、副会長は理事の互選により決定する。
- 3 役員任期は2年とする。ただし、再任はさまたげない。

(事務局)

第7条 この会の事務局は、会長指名企業内に置く。

- 2 事務局に事務局長を置く。
- 3 事務局長は会長が指名し、この会の庶務をつかさどる。

(役員職務)

第8条 会長は会務を総理し、この会を代表する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職を代行する。
- 3 理事は会務の執行上必要な事項を審議し、運営に当たる。

4 監事は会計事務を監査する。

(会議)

第9条 この会の会議は、総会と役員会とし、必要の都度会長が招集し、会議の議長となる。

- 2 議事は出席者の過半数によって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(総会)

第10条 総会は会員をもって構成し、次の事項を議決する。

- (1) 会則の改廃
- (2) 毎事業年度の収支予算及び事業計画の決定
- (3) 事業報告及び収支決算の承認
- (4) その他本会運営に関する重要事項

(役員会)

第11条 役員会は役員をもって構成し、次の事項を審議する。

- (1) 総会に付すべき事項
- (2) 総会の議決を要しない会務に関する事項

(会計)

第12条 本会の経費は会費及び事業に伴う臨時経費、その他の収入をもって充てる。

- 2 会費は年30,000円とし、年度当初、事務局に一括納入するものとする。また、事業に伴う臨時会費は、必要に応じ実費を徴収するものとする。
- 3 年度中途の入会の場合も1年分を徴収するものとし、また既納の会費は返戻しない。

(事業年度)

第13条 本会の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わるものとする。

附 則

- 1 本会の設立当初の役員就任については、第6条第2項の規定にかかわらず発起人会に置いてこれを定め、設立総会において承認を得るものとし、役員任期は平成9年度の第1回総会までとする。
- 2 本会の設立初年度の事業計画及び収支予算は第13条の規定にかかわらず、設立の日から平成8年3月31日までとする。

附 則

この会則は、平成14年7月15日から施行する。

附 則

(出典 総務課企画協力係資料)

資料A-1-①-5 米子高専振興協力会の沿革

米子工業高等専門学校振興協力会の沿革

平成3年 鳥取県東中部の企業20社からなる「米子工業高等専門学校振興協力会」が結成される。

平成7年 鳥取県西部・島根県東部の企業50社と米子市からなる「米子工業高等専門学校中海振興協力会」が結成される。

平成14年 「米子工業高等専門学校振興協力会」と「米子工業高等専門学校中海振興協力会」が統合され、「米子工業高等専門学校振興協力会」となる。

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料A-1-①-6 平成18年度 米子高専振興協力会の活動

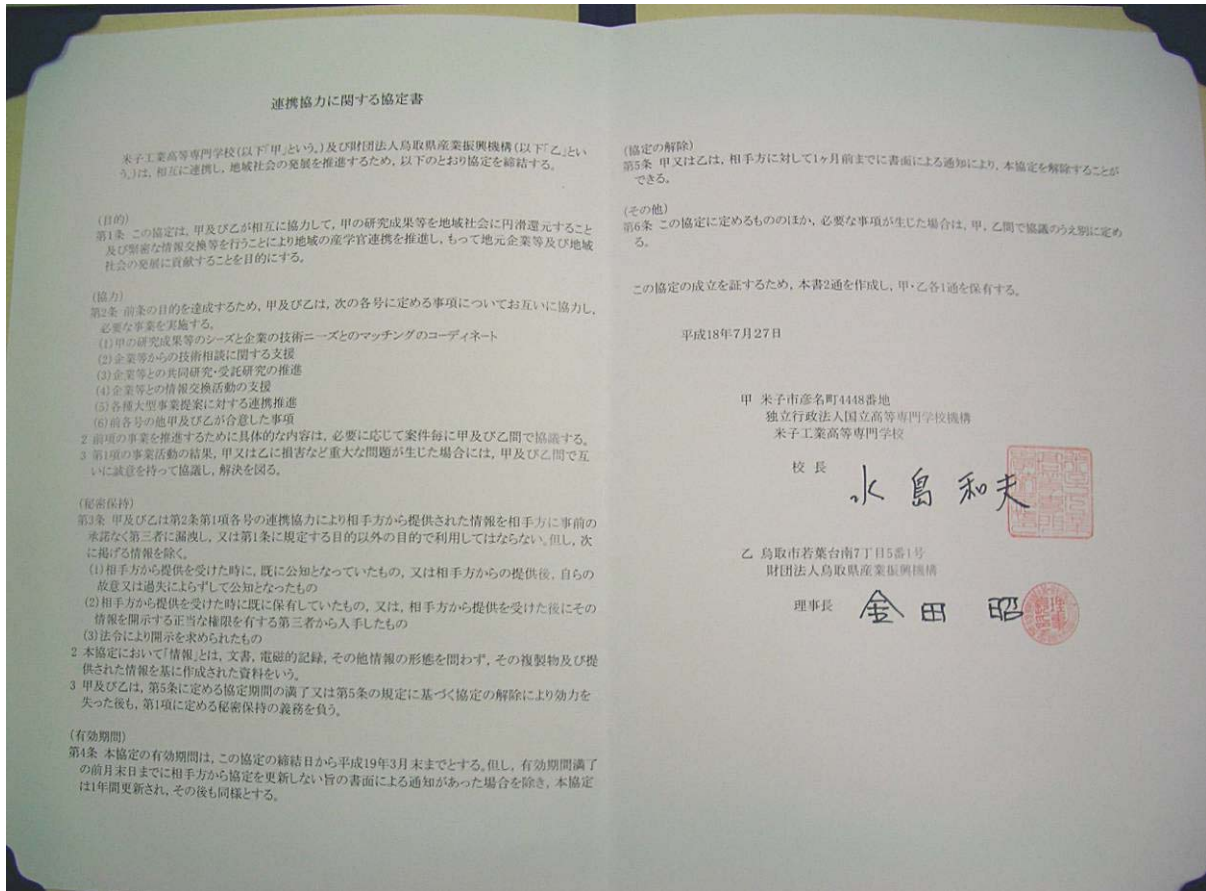
I. 産官学交流事業

6. 米子高専振興協力会

- (1) 役員会
- (2) 総会
- (3) 企業見学会
- (4) 東部地域会員交流会
- (5) 技術交流会
- (6) 研究発表会／新年懇談会

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録 目次)

資料A-1-①-7 鳥取県産業振興機構と米子工業高等専門学校との包括連携協定と新聞記事

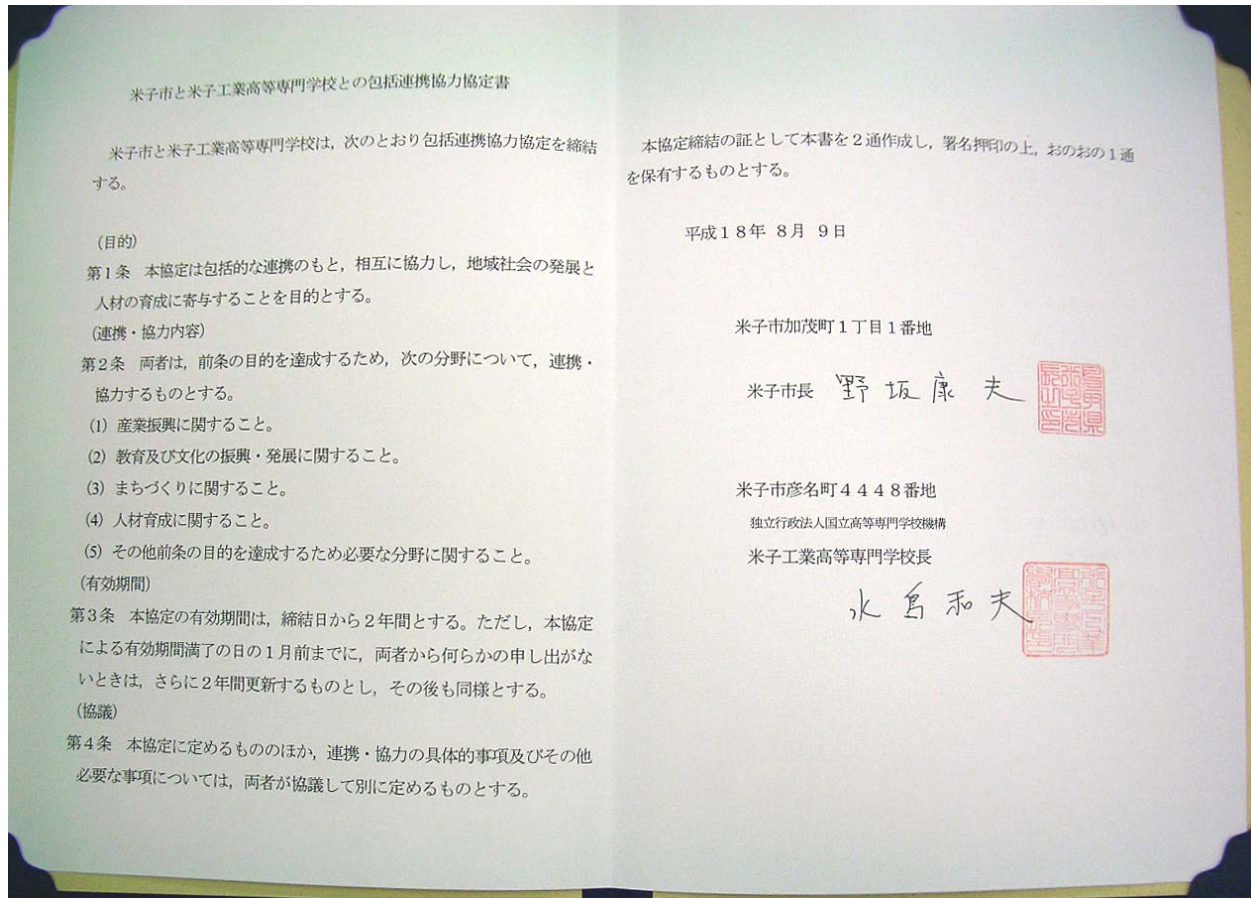


(出典 総務課企画協力係資料)



(出典 山陰中央新報平成 18 年 7 月 28 日付)

資料A-1-①-8 米子市と米子工業高等専門学校との包括連携協力協定書と新聞記事



(出典 総務課企画協力係資料)

読 査 新 聞

2006年(平成18年)8月10日(木曜日)

文化振興や街づくり
米子市と高専が協定
米子市と国立米子高専
(同市彦名町)が9日、協
力関係の強化を目指すた
めの「包括連携協力協定」を
締結した。同市役所での締
結式には、双方から4人ず
つが出席し、野坂康夫市長
と水島和夫校長が協定書に
署名。野坂市長が「一般向
け講座開催など、高専は市
民にとって大切な存在。協
定を機に、さらに関係強化
を」とあいさつし、水島校
長は「協調できる分野の拡
大を検討していきたい」と
応じた。協定書には、産業
や文化の振興、街づくりな
どでの連携を盛り込んでい
る。期間は2年間で、その後
は2年ずつ更新していく。

(出典 読売新聞 平成18年8月10日付)

資料A-1-①-9 共同研究に関連する規則

米子工業高等専門学校における契約担当役等の補助者
とする職位及びその事務の範囲を定める規則 抜粋

(趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第11条及び独立行政法人国立高等専門学校機構会計事務取扱規則第6条の規定に基づき、本校における契約担当役、出納命令役（以下「契約担当役等」という。）の補助者とする職位及び事務の範囲並びにその命免に関する事務の取扱いについて定めるものとする。

(補助者の職位等)

第2条 契約担当役等の補助者とする職位及びその事務の範囲は、別表第1及び第2に定めるところによる。

(命免の手続)

第3条 校長は、補助者の命免を行うときは別紙様式1「予算執行職員の補助者命免簿（職位指定）」により、自己の取扱う事務の範囲を確認させ記名・押印させて行うものとする。

- 2 予算執行職員の補助者命免簿は、契約担当役等ごとに別冊とするものとする。
- 3 契約担当役等の補助者の命免事務は、総務課財務係で行うものとする。

別表第1

契約担当役の補助者とする職位及び事務の範囲

部 局	補助者とする職位	事 務 の 範 囲
本 校	総 務 課 長	本校における収入又は支出に関する事務のうち次の事項 イ 300万円以上の予定価格調書案の作成（予定価格案の作成） ロ 予定価格が300万円以上の相手方の選定 ハ 300万円以上の検査及び検査調書の作成 ニ 不動産の売払、貸借、交換等に関する予定価格調書案の作成（予定価格案の作成） ホ 不動産の売払、貸借、交換等に関する相手方の選定 ヘ 入札の執行
	課 長 補 佐	当該係の所掌に係る収入又は支出に関する事務のうち次の事項 イ 当該係の所掌する収入又は支出決議案の作成 ロ 受託研究、共同研究の契約書案の作成 ハ 固定資産税の支出決議書案及び関係書類の作成
	経 理 係 長	当該係の所掌に係る収入又は支出決議案の作成
	契 約 係 長	当該係の所掌に係る収入又は支出に関する事務のうち次の事項 イ 300万円未満の予定価格調書案の作成（予定価格案の作成）並びに市場価格調査及び予定価格算出内訳書の作成 ロ 予定価格が300万円未満の相手方の選定 ハ 見積書の徴収 ニ 請書の受理 ホ 契約書案の作成 ヘ 発注の連絡 ト 契約決議案及び関係書類の作成 チ 契約履行上の監督・指示 リ 300万円未満の検査及び検査調書の作成

部 局	補助者とする職位	事 務 の 範 囲
本 校	施 設 係 長	当該係の所掌に係る支出決議に関する事務のうち次の事項 イ 300万円未満の予定価格調書案の作成（予定価格案の作成）並びに市場価格調査及び予定価格算出内訳書の作成 ロ 予定価格が300万円未満の相手方の選定 ハ 見積書の徴収 ニ 請書の受理 ホ 契約書案の作成 ヘ 発注の連絡 ト 契約支出決議案及び関係書類の作成 チ 契約履行上の監督・指示 リ 300万円未満の検査及び検査調書の作成

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

米子工業高等専門学校収入事務等取扱規則 抜粋

第1章 総則

（目的）

第1条 米子工業高等専門学校における収入事務等の取扱いについては、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

（通知義務者及び発生等の通知）

第2条 収入の発生及び減少等（以下「収入の発生等」という。）に関する通知義務者並びに通知義務担当係は次のとおりとする。

収入の発生等通知義務者一覧表 抜粋

収入の種類	通知義務者	通知義務担当係	備 考
外部資金収入	総務課長	企画協力係	
その他収入	〃	契約係、経理係	

第7章 外部資金

（外部資金）

第22条 通知義務者は、外部資金（寄附金、共同研究、受託研究、受託調査及び試験）の申込み等があったときは、所定の手続きを経て収入金調査書（別記様式第1号）に収入発生調査（別記様式第17号）及び関係書類の写を添付して総務課経理係に通知しなければならない。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

資料A-1-①-10 技術教育支援センター規則

米子工業高等専門学校技術教育支援センター運営委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校技術教育支援センター規則第6条第2項の規定に基づき、技術教育支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、米子工業高等専門学校技術教育支援センター（以下「センター」という。）に関し、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 管理運営に関すること。
- (2) 業務計画に関すること。
- (3) センター職員の研修計画に関すること。
- (4) その他センターの重要事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 技術教育支援センター長（以下「センター長」という。）
 - (2) 一般科目主任及び各学科主任
 - (3) システム化技術教育・開発センター副センター長（情報教育部門担当）
 - (4) 総務課長及び学生課長
 - (5) 技術長
 - (6) その他校長が必要と認めたる者
- 2 前項第6号の委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 3 第1項第6号の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長の指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、センターにおいて処理する。

附 則（平成14年3月25日規則第4号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

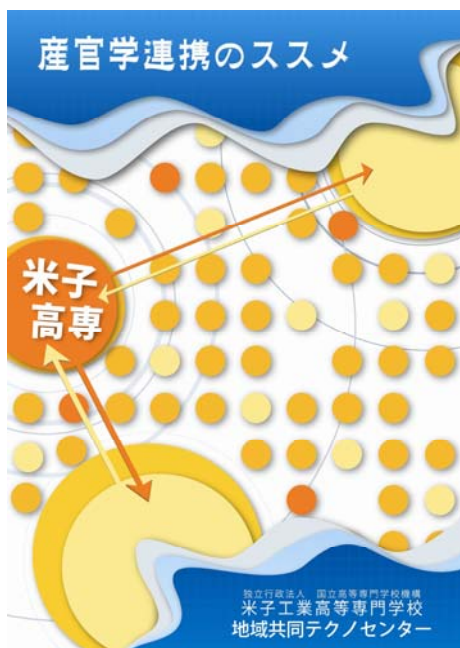
附 則（平成19年4月1日規則第14号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料A-1-①-11

「地域連携のススメ」表紙



(出典 地域共同テクノセンター発行
「産官学連携のススメ」)

資料A-1-①-12

「技術シーズ集」(平成16年度) 表紙

米子工業高等専門学校
技術シーズ集



平成16年6月発行

米子高専地域共同テクノセンター

(出典 地域共同テクノセンター発行
平成16年度 米子高専技術シーズ集)

資料A-1-①-13

研究開発支援総合ディレクトリ READ トップページ

研究開発支援総合ディレクトリ Read トップページ

研究開発支援総合ディレクトリ(Read)は産学官連携、研究成果の活用、および研究開発の促進に資することを目的として、国内の大学・公的研究機関に関する機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に収集・提供しているサイトです。

Directory Database of Research and Development Activities

ホーム Read概要 Read運営について 各種情報 お問い合わせ

情報検索サービス
Readにより提供いただいた研究者、研究機関、研究課題、研究資源に関する情報を検索できます。

キーワードで探す
検索方法について
検索したい研究活動情報にチェックを入れて、キーワードを入力してください。
 研究者 研究機関 研究課題 研究資源
 米子 高等専門学校
 いずれかのキーワードを含む

キーワード検索について
検索を行う場合は、キーワードを複数入力して全角スペースで区切ってください。検索をする場合はいずれかのキーワードを含む検索を行ってください。
スペースを含むキーワードで検索したい場合はキーワードをダブルクォーテーション(")で囲ってください。

カテゴリから探す
検索方法について
研究者、研究機関、研究課題、研究資源のうち探したい情報のカテゴリを選択してください。

お知らせ、トピックス
データ交換完了機関
 2007年4月27日 ● データ交換における仕様確定と受入処理の遅れについて
 2007年3月22日 ● 研究分野コードの4桁への一括変更について
 2007年3月9日 ● Read登録情報を利用して動向等の連絡を行うことはお控えください。
 2007年3月7日 ● 転出・退職等で所属機関が不明な方の情報を公開しています
 2007年1月18日 ● 「研究者情報更新のお願い」についてのメール送信を開始しました。

個人情報保護指針 知的財産権 免責事項

Copyright © 1998-2007 Japan Science and Technology Agency(JST). All Rights Reserved.

(出典 独立行政法人科学技術振興機構
Web ページ <http://read.jst.go.jp/>)

研究者個人への支援として、本校では、運営費交付金のうちの1,100万円を財源とした「教育研究活性化経費」を設けている。この経費のうち、科学研究費取得準備のための助成「科研費プレ研究費」と若手教員の研究助成「若手教員支援研究経費」は校内公募（資料A-1-①-14）を行い、校長のリーダーシップの下、審査し配分している。平成18年度の配分状況を資料A-1-①-15に示す（別添資料A-1-①-5）。毎年、多くの申請があり、広く予算配分を行っている。一方、「教育研究活性化経費」内に、前年度の活動実績（学会賞受賞、学術論文投稿、特許出願）によって配分される「教育・研究特別支援経費（研究分野）」と前年度の科学研究費応募者に配分される「科研費推進経費」を設け、活発な研究活動を奨励している（資料A-1-①-16）。

また、テクノセンターの予算では、産学連携による共同研究を推進する目的で、締結された共同研究に対して「共同研究助成」を、実施された技術相談に対して「技術相談助成」を行っている（資料A-1-①-17）。さらに、校内公募によって共同研究や受託研究への発展が期待できる萌芽的な研究や技術相談を募り（資料A-1-①-18）、「地域共同技術研究・開発研究援助費」をテクノセンター予算から配分している（資料A-1-①-19）。

なお、本校では、競争的研究資金や産学連携関係の外部資金に対し、経費目の5～15%にあたる間接経費を計上するよう義務付けている（資料A-1-①-20）。徴収した間接経費は主に光熱水費として支出し、広く学校の教育研究の基盤整備として利用している。

（分析結果とその根拠理由）

地域社会に根ざした産官学連携を推進するための地域共同テクノセンターを設置しており、その他学内組織・助成制度を含めて研究支援体制が整っている。また、米子高専振興協力会との連携により、活発な交流活動を行っており、（財）鳥取県産業振興機構などとの包括連携協定によって、地域との連携体制を強化している。

以上のことから、研究の目的に照らして、研究体制・支援体制及び地域社会との連携体制を適切に整備しており、十分に機能している。

資料A-1-①-14 教育研究活性化経費 校内公募要項

平成18年6月28日

各学科(目)長

各センター長 殿

校 長

教育研究活性化経費（プレ科研費）の配分について

本校における科学研究費補助金獲得への取組みを一層推進し、教育研究活動を活性化させるため、下記のとおり昨年に引き続き教育研究活性化経費として「プレ科研費」を配分しますので、平成18年8月25日(金)までに申請書(別紙様式)を添付して推薦願います。

なお、昨年度に同経費の配分を受けた教員は成果報告書を提出願います。

記

目的 本校の教育研究を推進するうえで特に重要と思われ、来年度(再来年度)科学研究費補助金採択の可能性が高いと思われる事業について支援を行う。

配分額 3,500千円

(1学科(個人)又は1グループ当たり1,000千円を限度)

配分方法 ①採択件数は概ね4～5件とする。

②提出があったものについて、ヒアリングを行い運営会議で審議のうえ校長が決定する。

提出先 会計課総務係

成果報告書の提出 要(紀要, 学会誌に投稿でも可とする。)

以 上

(出典 総務課資料)

平成18年6月28日

各学科(目)長 殿

校 長

教育研究活性化経費（若手教員支援研究経費）の配分について

教育研究の活性化を図るため、立ち上げ経費が不足していると思われる若手教員の教育研究活動を支援するため、下記のとおり昨年に引き続き教育研究活性化経費に若手教員支援研究経費を配分しますので、平成18年8月25日(金)までに申請書(別紙様式)を添付して推薦願います。

なお、昨年度に同経費の配分を受けた教員は成果報告書を提出願います。

記

配分額 2,500千円(1個人当たり200千円を限度)

配分方法 ①採択件数は概ね13件とする。

②提出があったものについて、ヒアリングを行い運営会議で審議のうえ校長が決定する。

提出先 会計課総務係

成果報告書の提出 要

以 上

(出典 総務課資料)

資料A-1-①-15 「科研費プレ研究費」と「若手教員支援研究経費」の申請及び配分状況

教育研究活性化経費の配分について

【科研費プレ研究費】 単位:円

氏名	所属学科等	申請額	配分額
1 森田 慎一	機械工学科	685,125	454,000
2 早水 庸隆	機械工学科	378,000	378,000
3 矢壁 正樹	機械工学科	118,000	118,000
4 大塚 宏一	機械工学科	1,000,000	794,000
5 河野 清尊	電子制御工学科	893,000	620,000
6 ※青木 薫	物質工学科	1,000,000	0
7 松本 幸大	建築学科	862,800	525,000
8 永井 猛	一般科目	250,000	200,000
9 南 雅樹	一般科目	1,506,200	411,000
合計		6,693,125	3,500,000
	予算額	3,500,000	
	配分額	3,500,000	
	差引残額	0	

※ 校長裁量経費等にて配分(860,000円)

【若手教員支援研究費】 単位:円

氏名	所属学科等	申請額	配分額
1 早水 庸隆	機械工学科	171,360	172,000
2 大塚 宏一	機械工学科	200,000	200,000
3 池田 英広	電気情報工学科	200,000	200,000
4 浅倉 邦彦	電気情報工学科	200,000	200,000
5 中山 繁生	電子制御工学科	219,500	200,000
6 里村 武範	物質工学科	177,030	177,000
7 兼子 朋也	建築学科	200,000	200,000
8 松本 幸大	建築学科	199,000	199,000
9 田口 陽子	建築学科	153,700	154,000
10 中島美智子	一般科目	200,000	200,000
11 越智 信彰	一般科目	200,000	200,000
12 北林 保	一般科目	200,000	200,000
合計		2,320,590	2,302,000
	予算額	2,500,000	
	配分額	2,302,000	
	差引残額	198,000	

(出典 平成 18 年 9 月 20 日 学科長会議資料)

資料A-1-①-16 「教育・研究特別支援経費(研究分野)」「科研費推進経費」配分状況

教育研究活性化経費の配分について

【教育・研究特別支援経費(研究分野)

①研究分野(学会賞等受賞者)

学科目	職名	氏名	配分額	備考
1 電気情報工学科	助手	西尾 公裕	50,000	平成18年5月 第8回LSI IPデザイン・アワード運営委員会受賞(網膜に学んだ...)
計			50,000	

②学術論文投稿支援

学科目	職名	氏名	配分額	備考
1 建築学科	助手	田口 陽子	45,000	日本建築学会計画系論文集 平成18年8月掲載
2 電子制御工学科	教授	雑賀 憲昭	23,000	Ultrasonics 平成18年6月掲載
3 電子制御工学科	助教授	河野 清尊	35,000	IEICE 平成18年5月掲載
4 電気情報工学科	助手	西尾 公裕	50,000	IEICE 平成18年2月掲載(Analog Integrated...)
5 電気情報工学科	助手	西尾 公裕	50,000	IEICE 平成18年2月掲載(A Two-Dimensional...)
6 一般科目	教授	酒井 康宏	50,000	John Steinbeck... 平成18年12月掲載予定
7 一般科目	助教授	池本 幸雄	50,000	The Journal of Sports... 平成18年3月掲載
計			303,000	

③特許出願

学科目	職名	氏名	配分額	備考
1 機械工学科	教授	足立 新治	50,000	平成18年3月出願「マッサージ機」
2 物質工学科	教授	小田 耕平	50,000	平成18年4月出願「可視光応答型光触媒の製造方法」
3 物質工学科	助教授	青木 薫	50,000	平成18年4月出願「可視光応答型光触媒の製造方法」
4 電子制御工学科	教授	雑賀 憲昭	50,000	平成18年4月出願「食用肉の鮮度評価装置」
5 電子制御工学科	教授	雑賀 憲昭	50,000	平成18年4月出願「光学的生体情報測定」
計			250,000	
	教育分野小計		1,450,000	
	研究分野小計		603,000	
	計		2,053,000	

②科研費推進経費

学科目	職名	配分額	備考
1 機械工学科	教授	50,000	基盤
2 機械工学科	教授	50,000	基盤
3 機械工学科	助教授	50,000	基盤
4 機械工学科	助教授	50,000	基盤
5 機械工学科	講師	50,000	若手
6 電気情報工学科	助教授	50,000	萌芽
7 電気情報工学科	助教授	50,000	萌芽
8 電気情報工学科	助教授	50,000	基盤
9 電気情報工学科	助手	50,000	若手
10 電子制御工学科	教授	50,000	基盤
11 電子制御工学科	助教授	50,000	基盤
12 電子制御工学科	助教授	50,000	基盤
13 電子制御工学科	助教授	50,000	萌芽
14 電子制御工学科	助手	50,000	若手
15 物質工学科	教授	50,000	萌芽
16 物質工学科	教授	50,000	基盤
17 物質工学科	教授	50,000	基盤
18 物質工学科	助教授	50,000	基盤
19 物質工学科	助手	50,000	萌芽
20 物質工学科	助手	50,000	若手
21 建築学科	教授	50,000	萌芽
22 建築学科	講師	50,000	萌芽
23 一般科目	教授	50,000	基盤
24 一般科目	助教授	50,000	基盤
25 一般科目	助教授	50,000	基盤
26 一般科目	助教授	50,000	基盤
27 一般科目	助教授	50,000	若手
28 一般科目	講師	50,000	萌芽
29 一般科目	講師	50,000	若手
30 一般科目	講師	50,000	若手
31 一般科目	講師	50,000	若手
計		1,550,000	

(出典 平成 18 年 9 月 20 日 学科長会議資料)

資料A-1-①-17 「共同研究助成」「技術相談助成」 配分状況

平成18年度 共同研究助成

No.	研究者名	申請者	研究課題	研究経費	助成額
1	雑賀憲昭	松下電工(株)	生体内光伝播現象の検証	200,000	16,300
2	池田 彰	多久電機(株)	マイクロバブルによる各種気体の溶解性と用途の検討	500,000	40,800
3	小田耕平 青木 薫	(株)栗谷テクノス	アスベストの現位置無害化処理システムの開発	300,000	24,500
4	小田耕平 青木 薫	美保テクノス(株)	廃瓦トータルリサイクルシステムの研究開発	530,000	43,200
5	森田慎一 稲田祐二	フジ化成工業(株)	低環境負荷型外断熱工法の研究開発	651,000	53,100
6	池田 彰	(株)森久エンジニアリング	人工光を用いた植物工場に関する研究	600,000	48,900
7	藤井雄三	(有)マリン環境研究所	海洋環境に適応した防汚塗料の研究開発	480,000	39,100
8	青木 薫	(株)カノン	繊維裁断屑を用いた多用途高機能フィルター材料の開発	750,000	61,100
9	熊谷昌彦	長岡技術科学大学	地方都市における地震被災者の緊急避難所としての学校の役割に関する研究	308,000	25,100
10	足立新治	ファミリー(株)	マッサージチェアの高機能及び多機能化に関する研究	150,000	12,300
11	中山繁生	(株)アイズ	「妖怪神社」へのロボットの導入	300,000	24,500
12	小田耕平 青木 薫	(有)松井オートサービス	新規無電解メッキ液の開発	200,000	16,300
13	青木 薫 藤井雄三	(株)氷温研究所	氷温技術を用いた発酵製品の開発	200,000	16,300
14	小田耕平 青木 薫	(有)アクティマム	窒化チタンを原料とする可視光応答型光触媒スプレー剤の開発	600,000	48,900
15	山口顕司	(株)ウメカワ	水溶性加工液の循環利用を促進するリサイクルビジネスの創出	530,000	43,200
16	小川和郎	(株)片木アルミニウム製作所	高精度高効率溶解燃焼システムへの廃食油再利用システムの構築	700,000	57,000
計				6,999,000	570,600

平成18年度 技術相談助成

	氏名	相談テーマ	相談者	助成額
1	足立新治	重量物ハンドリング作業の改善	大山ハム(株)	12,000
2	大塚 茂	HDD、DVDドライブにおける流体軸受技術利用方法と今後の技術展望について	TDK甲府(株)	12,000
3	大塚 茂	強力型ファンの特許性に関する技術的見解について	フマキラー(株)	12,000
4	大塚 茂	共同出願特許審査請求に関する新規性・進歩性の検証方法について	大同特殊鋼(株)	12,000
5	大塚 茂	水中ポンプ用スラスト動圧軸受の試作金型製作メーカーの紹介と実績について	(株)米子シンコー	12,000
6	大塚 茂	シロッコファンにおける高効率化の方法について	(株)米子シンコー	12,000
7	大塚 茂	水中ポンプ用スラスト動圧軸受の試作金型実設計について	(株)米子シンコー	12,000
8	大塚 茂	水道管内水車による発電方法の容量・効率に関する計算方法、及び実用化の目的について	(株)米子シンコー	12,000
9	大塚 茂	水中ポンプ動圧軸受の形状について	(株)米子シンコー	12,000
12	河添久美	熱交換器用管材の材料の選定及びその入手手段の調査	(有)佐々木工務店	12,000
13	森田慎一	洗浄技術、微細気泡発生技術について	(株)A&M	12,000
14	森田慎一	冷凍空調技術について	鳥取電機製造(株)	12,000

略

46	青木 薫	新規事業に関する相談	(有)野口運送	12,000
47	青木 薫	製品中のゲルマニウム含有率の測定方法	(株)ヘイセイ	12,000
48	藤井雄三	植物成分の抽出方法について	(有)山陰クリエート	12,000
49	藤井雄三	エッセンシャルオイルの製造及び販売について	(株)田中農場	12,000
50	里村武範	水素生産能を有する微生物を用いた水素生産技術の改善点について	(有)サカネビケン	12,000
51	稲田祐二	繊維補強コンクリート(バルチック)の施工と課題について	(株)金田工務店	12,000
52	稲田祐二	特許案件(建築制振デバイスについて)	鳥取県知的所有権センター	12,000
計				624,000

(出典 平成18年12月20日 学科長会議資料)

資料A-1-①-18 地域共同技術研究・開発研究援助制度について

地域共同技術研究・開発援助制度について

H18. 7. 5 改正運営会議了承

地域共同テクノセンター

1. 共同研究助成

目的: 共同研究の活性化のため、「共同研究契約」の締結された共同研究に対し研究の円滑化をはかるため助成をする。

助成: 共同研究(研究経費)契約金額の20%以内、限度額は15万円/件以内とする。

原資: 地域共同テクノセンター運営費

2. 地域共同技術研究・開発援助費

目的: この助成金は将来本校との共同研究や受託研究等への発展的な展開を期待した萌芽的な研究助成である。

条件: すでに共同研究, 受託研究, 寄付金などの受け入れが行われているテーマ, もしくはそれと関連性の認められる内容のものは対象外とする。

優先順位: 優先順位を次のとおりとする。

- 1 位 米子高専振興協会の「技術交流会」PROPOSAL のテーマ
- 2 位 米子高専振興協会会員企業との共同テーマ
- 3 位 その他

採択: 採択にあたっては、米子高専振興協会会長の意見を聞くことができる。

助成: 15万円/件以内、1件/(年度・人)、助成件数: 6件(弾力的に扱う。)

原資: 地域共同テクノセンター運営費及び振興協会からの寄付金

報告: 研究終了後、報告書を提出する。

報告書は、校内ホームページ及び地域共同テクノセンター活動報告(仮称)に掲載する。但し内容の公表は、知的財産権保護の観点から申し出により掲載を省略することができる。

申請: 詳細は別途定める。

3. 技術相談助成

目的: 技術相談事業の活性化のため研究助成

助成: 1.5万円/件 以内

条件: 産官からの技術相談を対象とする。すでに共同研究, 受託研究, 寄付金などの受け入れが行われているテーマ, 若しくはそれと関連性の認められる内容のものは対象外とする。

原資: 地域共同テクノセンター運営費及び振興協会からの寄付金

申請: 詳細は別途定める。

報告: 別に定める技術相談報告書を提出する。

申し合わせ事項

①「共同研究助成」, 「地域共同技術研究・開発援助費」, 「技術相談助成」の助成額の割合は、総予算のそれぞれ25%, 45%, 30%を目安とする。

②助成の配分時期: 共同研究助成及び技術相談助成は実績が出揃う年末とし、それ以降の案件は次年度に配分する。
地域共同技術研究・開発援助費は1月に校内募集後、新年度当初に配分する。

(出典 平成18年7月5日運営会議資料)

資料A-1-①-19 地域共同技術研究・開発研究援助 配分状況

平成18年度地域共同技術研究・開発援助費助成

17年度申請

	共同研究題目	申請者 (代表)	決定額 (円)	研究 終了予定
1	軸流ファン自動設計プログラムを活用した流体騒音低減 手法開発に関する基礎実験データ採取研究	大塚 茂	150,000	18年度末
2	BCN化合物を利用した鉄鋼材料表面への摺動性膜の付 与に関する研究	小田耕平	150,000	18年度末
3	ドレス遠隔製作支援システムにおける型紙データの作成	河野清尊	150,000	18年度末
4	マグネシウム合金の耐食性向上に関する研究	青木 薫	150,000	18年度末
5	ロボットの導入による水木しげるロードの活性化に関す る研究	中山繁生	150,000	18年度末
	合 計		750,000	

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料A-1-①-20 外部資金受入れに係る間接経費の取扱いに関する申合せ

外部資金受入れに係る間接経費の取扱いに関する申合せ

1. 目的

この申合せは、本校が外部の機関（以下「外部機関」という。）から外部資金を受け入れる場合の間接経費の額、その用途等について定めることを目的とする。

2. 定義

(1) 外部資金

- ① 共同研究において外部機関が負担する経費
- ② 受託研究経費
- ③ 寄附金
- ④ 科学研究費補助金
- ⑤ その他これらに準じるもの

(2) 間接経費

外部資金による研究を遂行するために必要となる本校施設の使用料、光熱水費等の経費

3. 間接経費の留保

外部資金を受け入れる場合は、4. に定める間接経費の額を本校に留保するものとする。

4. 間接経費の額

(1) 共同研究において外部機関が負担する経費

5%に相当する額

(2) 受託研究経費

直接経費の15%に相当する額

ただし、次に該当する場合には、間接経費の一部又は全額を免除することができる。

- ① 委託者が国である場合
- ② 国以外の団体等で国から補助金等を受け、その再委託により研究を受託することが明確である場合
- ③ 次のいずれかに該当し、校長が真にやむを得ないと認める場合
 - (ア) 委託者が特殊法人、認可法人、独立行政法人又は地方公共団体であって、財政事情で間接経費が措置されていない場合
 - (イ) 委託者が上記①、②以外の者であって、従前から直接経費のみを受入れていた研究課題で、継続して受入れる場合
 - (ウ) 競争的資金（政府補助金・政府出資金等政府（各省庁を含む。）から配分される研究開発資金等）による研究費のうち、当該研究費に係る間接経費が措置されていない場合

(3) 寄附金（独立行政法人国立高等専門学校機構寄附金取扱規則第2条第3号に規定する経費）

寄附金額のうち5%に相当する額

ただし、次に該当する場合には、間接経費の一部又は全額を免除することができる。

- ① 寄附金の全額を旅費に使用する場合等、本校の施設利用を伴わない場合
- ② 研究助成事業等に応募し採択されたもののうち、間接経費が措置されていない場合

(4) 科学研究費補助金、その他これらに準じるもの

交付時等にあらかじめ間接経費が措置されている場合、その全額

5. 間接経費の用途

「競争的資金の間接経費の執行に係る共通指針（平成13年4月20日 競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ）」で定める別表1（間接経費の主な用途の例示）を準用することとし、本校の教育研究環境の維持・改善のために活用する。

付 記

この申合せは、平成17年4月1日から実施する。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

本校での産学連携による主な共同研究のテーマ一覧を資料A-1-①-2(7ページに前出)に示す。研究テーマは、教員の専門分野の多様性に対応して、機械・電気製造関連、環境・リサイクル、食品関連など多岐にわたっている。また、相手企業は、鳥取県西部地域の企業を中心に県下全域に広がっており、「低環境負荷型外断熱工法の研究開発」といった地元産業のニーズへの確に応えた研究(資料A-1-②-1)や「学生による妖怪神社のロボット製作」のような地元観光業への貢献する研究がある(資料A-1-②-2)。

共同研究の結果、平成16～18年度には、4件の特許が本校から出願され、高専機構へ承継されている(資料A-1-②-3)。また、産官学連携で行った、超高速光ファイバー「JGNⅡ」を活用した共同研究は、情報通信研究機構から「利用促進賞」を受賞するなど、高い評価を得ている(資料A-1-②-4)。また、これらの産官学連携による研究には、卒業研究・特別研究の学生が参加しており、連携の成果は企業だけでなく、技術教育のレベルアップにもつながっている。研究の結果、本校の専攻科生は、LSI IPデザインアワードでの開発奨励賞の受賞(資料A-1-②-5)、学会での優秀発表賞などの受賞(資料A-1-②-6)といった評価を得ており、本校での教育が高い水準で行われていることを示している。

本校では、平成8年度からの12年間で博士号取得教員数が約4倍に増加し(資料A-1-②-7)、専門学科の学位取得教員数も68%に向上した(資料A-1-②-8)。これは、新規に博士号取得者を採用しただけでなく、多くの教員が大学の社会人コースなどを利用して、大学等の研究機関との共同研究を行った結果でもあり、本校教員が教育水準の維持・向上のために活発な研究活動を行っていることを示している。

資料A-1-②-9には、共同研究、受託研究、奨学寄付金、技術相談の件数と総受入金額の推移を示す。産学連携を強化してきた結果、これらの件数は増加傾向にあり、特に共同研究・技術相談の件数は順調に増加している。共同研究の増加は、本校教員が技術相談の結果を実用化技術までブラッシュアップしたこと、鳥取県が行う各種開発助成(資料A-1-②-10)を活用したことによるもので、産官学連携の成果である。平成18年度の各経費目の総受入金額は、共同研究・受託研究費が約1,840万円、奨学寄附金が1,830万円であり、堅調に推移している。

科学研究費補助金の申請・採択件数は、平成17年以降、申請件数、採択件数とも顕著に増加し、多くの教員が科学研究費の獲得に積極的に取り組んでいる(資料A-1-②-11)。

学会発表件数も多く、学術論文の投稿数も一定数あり成果を上げている(資料A-1-②-12)。

(分析結果とその根拠理由)

産学連携による研究活動を活発に行っており、地域産業の発展に十分貢献している。また、学生の研究成果への表彰などから、研究活動の過程及び成果を反映させた高い水準の学生教育を行っていることが分かる。外部資金獲得件数も近年増加傾向にあり良好である。

以上より、研究の目的に沿った活動の成果を上げている。

資料A-1-②-1 「低環境負荷型外断熱工法の研究開発」雑誌記事

山陰経済

ウイークリー

Weekly News

外断熱工法の効果 データで実証 米子高専と県産業技術センターとの共同研究 フジ化成工業、販路拡大に活用へ

断熱材製造などのフジ化成工業株（鳥取県伯耆町大殿、笠原兼典社長、☎0859・68・2721）と米子高専（米子市彦名町、鳥取県産業技術センター（鳥取市若葉台南七丁目）が、建築物に使われる外断熱工法の効果をデータで実証した。外断熱の効果を科学的に証明したデータは珍しいという。同社は得られたデータを営業活動に活用し、日本国内での外断熱の市場拡大につなげたい考えだ。

外断熱は建物の外側に断熱材を設置する方法。外気温の影響を少なくしたり、建材の腐食を防ぐなどの効果があり、欧州や北米など

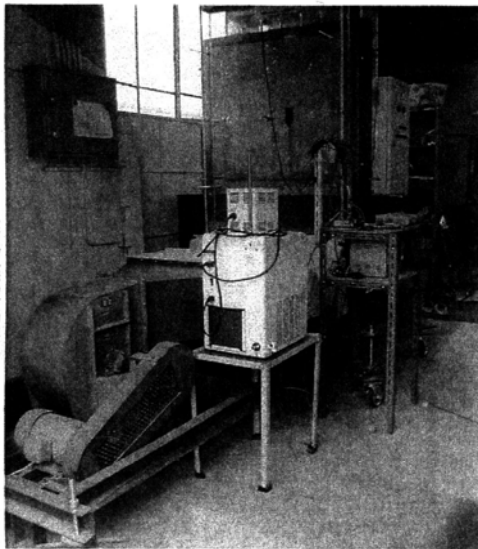
では主流。しかし日本では建築コストが安く、室内暖房や冷房が効きやすいなどのメリットがある内断熱の採用が多く、国内の建物のうち、外断

熱工法の普及率は2%程度といわれている。

同社は三十年以上前から、炭酸カルシウムを主成分とする発泡体の断熱材「ロックセルボード」を製造。高い断熱性や耐久性、不燃性などのほか、コンクリートやタイルなどへの接着性が優れているとして販路を広げてきた。

六年前、ロックセルボードを使い、低コストで簡単に施工できる外断熱工法を開発。同工法は原子力発電所や施設のクリーンルームなどの建設に使われるなど、国内にあるコンクリート建築物の三分の一のシェアを占めるまでに成長。年間六億円から七億円を売り上げている。

同社は近年、外断熱工法の耐久性や省エネ効果が見直され、



外断熱工法の有効性を実証するため使われた実験装置

全国ネットの人材情報で、出向・移籍・転職をサポート!

お気軽にご相談ください

信頼と安心

全国ネット

無料

経済・産業界と厚生労働省の協力で設立された公益法人

財団法人 産業雇用安定センター

島根事務所

松江朝日町498-6 松江駅前第一生命ビル8階
TEL0852-27-1151 FAX0852-27-1180
http://www.sangyokoyo.or.jp/

れていることを踏まえ、外断熱工法の市場拡大を計画。普及手段として、外断熱効果のデータ実証が必要と考え、県から補助を受け、〇五年九月から米子高専や県産業技術センターと共同研究をスタートさせた。

研究では、米子高専機械工学科の森田慎一助教授の研究室が中心となって検証。外断熱と内断熱の効果を検証するため、八十センチ四方で厚さ十八センチのコンクリートの試験片に、厚さ五センチの断熱材を設置。試験片の表と裏に低温と高温の空気を送ることで、コンク

リットと断熱材の表面温度を計測した。この結果、屋外からの熱に対して外断熱工法が有効であるというデータを得た。

フジ化成工業では、得られたデータを商品カタログに掲載したり、建築施主や設計事務所、工務店などに対するプレゼンテーション用の材料として活用し、販路を拡大したいと考えた。

(出典 週刊山陰経済 2007年2月27日発行)

資料A-1-②-4

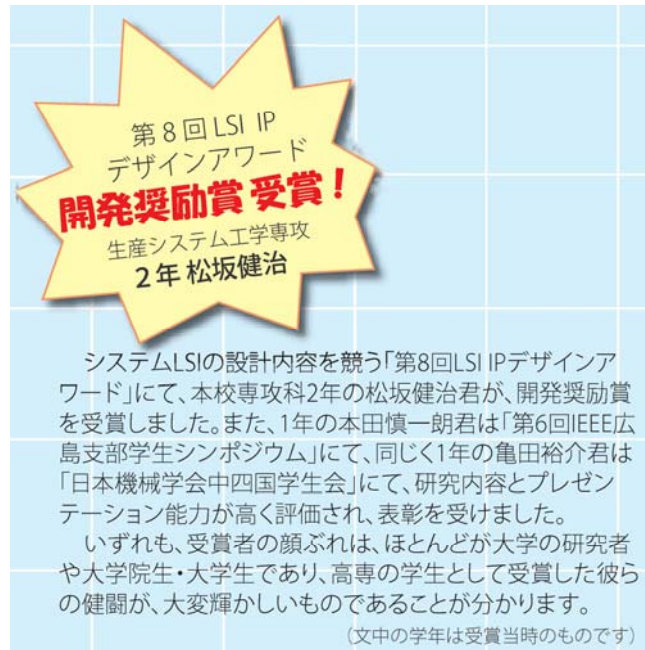
超高速光ファイバー「JDN II」新聞記事



(出典 山陰中央新報 平成 19 年 1 月 19 日付)

資料A-1-②-5

「LSI IP デザインアワード 開発奨励賞」



(出典 平成 18 年度米子高専専攻科紹介パンフレット)

資料A-1-②-6

「機械学会 優秀発表賞」新聞記事



(出典 日本海新聞 平成 17 年 4 月 3 日付)

資料A-1-②-7 学位取得教員数の変遷

平成19年度4月1日現在

年度(平成)	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
博士	12	14	17	20	21	25	28	31	34	41	47	49
修士	25	25	26	27	27	29	27	25	24	23	21	18
常勤教員総数	76	76	77	77	77	78	76	76	76	78	80	77

(出典 総務課資料)

資料A-1-②-8 平成18年度学位取得教員の学科別割合

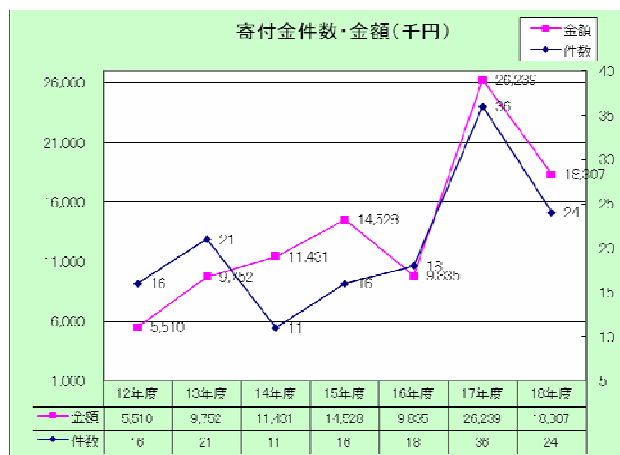
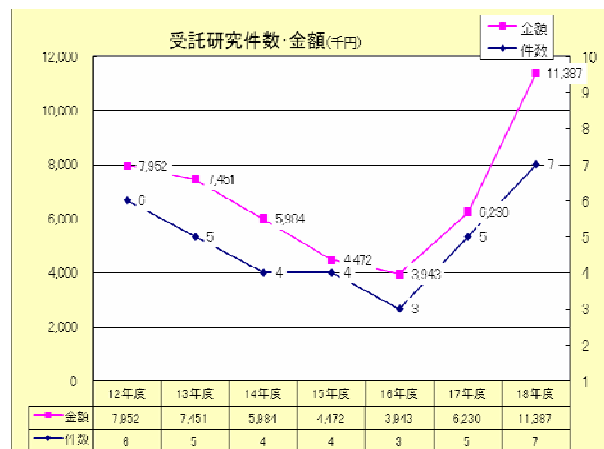
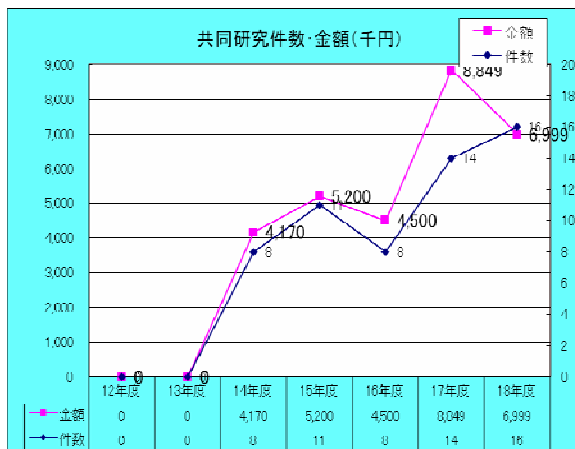
平成19年度4月1日現在

	一般科目	機械	電気情報	電子制御	物質	建築	合計
常勤教員数	24	10	11	10	11	11	77
博士号取得者数	13(54)	6(60)	9(81)	6(60)	9(81)	6(54)	49(63)
専門学科博士号取得者数		36(68)					

括弧内は%

(出典 総務課資料)

資料A-1-②-9 共同研究, 受託研究, 奨学寄付金の件数と総受入金額



(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料A-1-②-10 鳥取県が行う各種開発助成制度一覧



青少年・文教課

鳥取県環境学術研究振興事業

本事業は、県内の高等教育機関が取り組む「環境に関する学術研究」を支援することにより、本県の環境保全及び快適な環境の創造に関する施策の推進並びに環境関連産業の発展に資することを目的とし、平成13年度から開始しました。

鳥取県環境学術研究基金の運用益を財源としています。

産業開発課

知的財産・ベンチャー発掘支援事業補助金について

○補助制度概要

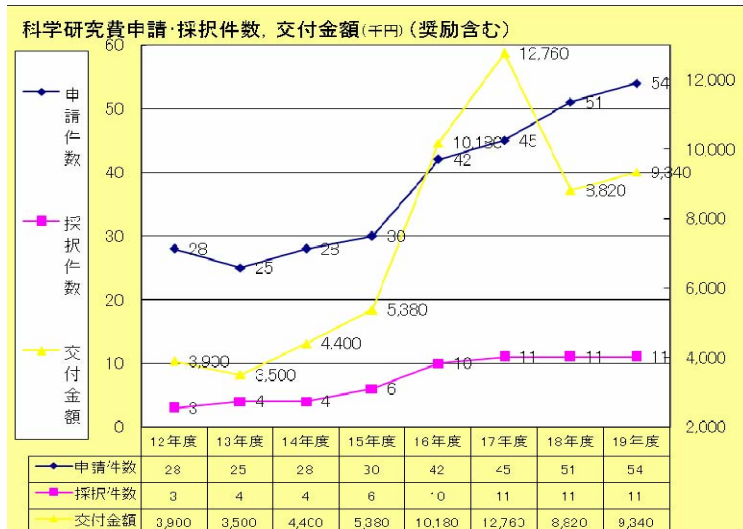
鳥取県では産学官連携を強化することで、大学・高専等の知的財産を活用した新技術・新産業の創出、また地域ブランドの取得を目指した新産業・ベンチャー創出を促進して、鳥取県産業の活性化を図ることを目的に『知的財産・ベンチャー発掘支援事業補助金』を設置しています。

助成対象となるのは

- ・産学協同研究型 県内外の大学等と共同研究を行う県内中小企業等
- ・ベンチャー型 県内で創業を目指す創業予定者
- ・地域ブランド型 鳥取県内に所在する事業共同組合、その他特別法によって設立された組合（要法人格）で、所要経費の2/3（最大3,000千円）を補助します。

（出典 鳥取県ウェブサイト <http://www.pref.tottori.lg.jp/>）

資料A-1-②-11 科学研究費補助金の申請・採択状況



（出典 総務課企画協力係資料）

資料A-1-②-12

専攻科学生の学会発表
件数・論文発表件数

年度	H17	H18
発表件数	27	27

（出典 専攻科研究発表
実績アンケート結果）

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、従来から各教員の研究活動実績の報告を義務付けており、平成15年度からは、Webページを利用したフォーム入力による「教員業績データベース」を構築し(資料A-1-③-1)、教員及び技術職員の研究活動に関する情報を蓄積している。これらの情報は、校長が適宜閲覧・把握しており、学術論文投稿・学会賞受賞・特許出願状況・科学研究費申請状況などは、「教育研究活性化経費」配分の際、全教員に周知している。また、共同研究・受託研究などの外部資金の申請・受入れ状況は、窓口となるテクノセンター及び企画協力係が把握しており、学科長会議にて定期的に報告した後、各学科・科目で行われる会議(科会)にて報告することで全教員が把握している(資料A-1-③-2, 資料A-1-①-2, 7ページに前出)。研究活動等の状況は、外部有識者からなる評議員会(資料A-1-③-3)においても報告し、問題点の指摘等を受けている(資料A-1-③-4)。

研究支援活動に関する具体的な改善策は、評議員会で得られた提言や学科長会議などを通じて出された各学科・科目からの意見を踏まえ、運営会議が中心となって立案・実施している(資料A-1-③-5)。これまでに、科学研究費補助金の準備研究を支援する「科研費プレ研究費」、研究用備品等が乏しい若手を支援する「若手教員支援研究費」といった校内公募方式の助成が新設された(資料A-1-①-14, 17ページに前出)。これらの研究費を有効に活用するために、次年度には報告書の提出を義務付け、評価・改善委員会(資料A-1-③-6)が成果状況の評価する(別添資料A-1-①-5)。運営会議はこれらの評価結果をその後の経費配分に活かすこととしている。また、平成18年度には、公募方式の教育方法改善等経費(資料A-1-③-7)を廃止して、前年度の研究と教育の実績により配分する「教育・研究特別支援経費」(資料A-1-①-16, 18ページに前出)を新たに設けるなどの改善策を行ってきた。

(分析結果とその根拠理由)

校内では校長を中心に全教員が研究活動の実施状況を具体的に把握するとともに、外部有識者の意見を取り入れる体制を整え、運営会議にて改善策を立案・実施している。

以上より、研究活動等の実施状況等を把握し、改善を図る体制が機能していると言える。

資料A-1-③-1 「教員業績データベース」ログイン画面と入力項目一覧

教員業績データベース

教員用メニュー []

年度 2006年度* ▼

閲覧 編集

上の「閲覧」または「編集」にチェックしてから項目名をクリックして下さい。
 [注意] 年度の末尾に*印のついている年度のみ編集することが出来ます。
 それ以外は閲覧のみとなります。

項目名	
必須記入項目(非公開)	本科担当授業・シラバス
	専攻科担当授業・シラバス
	学位の取得状況
	技術資格の取得状況
	研究発表業績(学術論文・総説・解説等)
	研究発表業績(著書・翻訳)
	研究発表業績(口頭発表)
	公開講座
	出前講座
	特別講演・非常勤講師
	連携イベントの企画・運営・参加状況
	各種委員会メンバー・アドバイザー・パネリスト等
	各種会議等への出席状況(上記委員等でない場合の会議等)
	技術相談
	技術転移・実用化
特許・実用新案	
国際協力	
必須記入項目(公開)	授業アンケート結果
	教育関連表彰
	学術等研究関連表彰
認証評価項目(授業に関する活動状況)	公開授業の実施状況
	授業準備等
	自主教材作成等(自主教材作成と工夫)
	自主教材作成等(開発・改良・改善)
	オフィシアワー
	補習授業
	質問対応
	学生の最終成績
	指導学生の資格取得
	留学生指導

ファカルティデベロップメント	FD活動
クラブ同好会指導状況	クラブ・同好会顧問活動 クラブ同好会の成績 加盟団体への貢献
コンテスト・弁論大会等クラブ・同好会以外に関する学生指導	コンテスト等に参加する学生の指導状況
学生の生活指導(学生寮での生活指導を含む)	生活指導
学校運営	校務分掌(学科長)
	校務分掌(主事・主事補等)
	校務分掌(各種委員会委員)
	校務分掌(学級担任)
	各種校内委員会
	校内行事への参加
	学科・科目内分掌
	PR活動(発表等によるPR)
	PR活動(イベント等の参加によるPR)
	芸術・建築・体育関連業績(展覧会・演奏会・スポーツ大会・建築)
芸術・建築・体育関連業績(文化財の修復等)	
学術研究・技術開発・外部資金の導入に関する活動	研究に関する報道等
	学協会活動(所属学協会)
	学協会活動(学協会役員・委員)
	学協会活動(学術講演会等での活動(役員・座長等))
	学協会活動(学術雑誌等の編集委員)
	学協会活動(論文等の査読)
	外部資金等導入申請実績(科学研究費補助金)
	外部資金等導入申請実績(その他公募資金)
	外部資金受入実績(科学研究費補助金)
	外部資金受入実績(その他公募資金)
外部資金受入実績(受託研究・共同研究・委任経理金・校内プロジェクト)	
自己採点	自己採点

(出典 米子工業高等専門学校教員業績データベース)

資料A-1-③-2 外部資金等受入れ状況の報告

- 一般科目科会議事録
 日時:4月25日(火)16時30分~18時
 場所:大会議室
 出席20名 欠席5名(藤田、大庭、大原、南〔出張〕、森田〔非常勤〕)
 議題
 1、学科長会議(4/19)報告→科目長から各項目について資料等に基づき報告があった。
 (1)校長会(3/24)報告 →資料1。
 中略
 (2)平成18年度校務分掌 →HPに掲載予定。
 (3)専攻科の運営組織
 →専攻科と本科の連携をとるために、専攻科委員会に5年担任が必要に応じて参加することで了承。
 (4)専攻科棟の竣工記念式典
 →5月26日(金)14時(合同講義室)から施設見学。祝賀会(第二体育館。ノンアルコール。経費は教職員
 醸出金)。
 (5)情報セキュリティ規則改定 →資料2。
 (6)平成18年度科学研究費の申請・採択状況 →科目長から資料3について報告があった。
 (7)平成18年度現代GPの申請
 →科目長から申請書が回覧され、7月に校内模擬ヒヤリングが行われることが連絡された。
 (8)平成18年度外部資金等受入審査状況 →資料4。

後略

(出典 平成18年4月25日一般科目科会議事録)

資料A-1-③-3 評議員会規則

米子工業高等専門学校評議員会規則

(設置)

第1条 米子工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学校運営に関し、外部からの意見を聴くため、評議員会を置く。

(審議事項)

第2条 評議員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項について審議する。

- (1)本校の教育研究活動に関する重要事項
- (2)本校の地域貢献活動に関する重要事項
- (3)その他本校の運営に関する重要事項

(委員)

第3条 評議員会の委員は10名以内とし、本校の職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者の内から、校長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合、後任の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 評議員会に会長を置き、第3条に掲げる委員の互選によって決定する。

2 会長は、評議員会を招集し、その議長となる。

3 会長に事故があるときは、会長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(意見の聴取)

第6条 評議員会は、必要があるときは関係者の出席を得て、意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 評議員会に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、評議員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料A-1-③-4 評議員会意見・提言に対する対応状況等 抜粋

平成16年度 第1回評議員会

テーマ：「本校の現状—法人化対応,中期計画等について—」 H16.7.13

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>地域貢献の積極的なPRと、分かりやすい窓口を開いておく必要がある。</p> <p>外部資金獲得に積極的挑戦をして欲しい。</p>	<p>平成5年よりシステム化技術教育・開発センターを設置し、地域貢献（産官学連携）に対応してきた。平成16年組織を改組し「地域共同テクノセンター」とし、これに当たっている。そこを中心としたPR活動も行っており、これはどしどし推進したい。</p> <p>外部資金獲得者には予算的措置を講ずるなどの施策を実施し、これが増える方向に持っていっている。</p> <p>このことをご指摘どおり継続的に実施したい。</p>	

平成17年度 第1回評議員会

テーマ：「高専の地域貢献」 H17.7.14

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>県が企業に補助している制度を十分利用し、国・地方の助成等に積極的に応募して資金を獲得されたい。</p> <p>共同研究、受託研究件数を2倍位にできないか。</p>	<p>事務担当者から、全教職員に対し、国及び自治体等の助成金・補助金の案内をしているが、なかなか応募、さらには採択に至っていない。</p> <p>地域共同テクノセンターで受け入れた技術相談については、全教職員に対し案内をし、意識の向上を図っている。</p> <p>数値目標の設定はしていないが、これらの実施者には予算的措置を講ずるなどの施策を実施し、着実に増えている。</p>	<p>特定の教員に集中する傾向がある。</p>

平成17年度 第3回評議員会

テーマ：「教育研究活動」 H18.3.30

意見・提言	対応	課題・問題点等
<p>県の公募事業や経済産業省の地域新生コンソーシアム事業等もっと増えるようどんどん応募申請していただきたい。</p> <p>機構予算が減るなか研究費の確保のため、どのような方策を立てておられるのか。</p> <p>教員研究費減などによる学生指導への影響を心配するとともに、根本的な予算減になるので今後どう対処されるのか。</p> <p>研究報告を産業振興機構、産業技術センターにも配布して欲しい。</p>	<p>予算減となっている現状において、今後、共同研究、科研費等外部資金の研究費助成など外部資金や競争的資金の確保に一層積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>配布する。</p>	<p>対文科省等申請は行方が極めて厳しく難しくなっている。</p> <p>先ず、財務省から文科省への予算自体が激減している中で通常予算額のプラスアルファ分が非常に取れにくくなっている。</p>

(出典 総務課資料)

資料A-1-③-5 教育研究活性化経費等に関する議事録

学 科 長 会 議 議 事 録

日 時 平成16年12月15日(火) 16:00~17:55

場 所 小 会 議 室

2. 教育研究活性化経費(科研費推進経費)の追加配分について

校長から、資料に基づき説明があり、予算は300万円、競争的資金とするため申請額を100万円以下とし、採択件数は3~4件としたいが、最終的には申請状況により検討したい旨の提案があった。

これに対して、研究費が大幅に削減されている状況なのでなるべく多くの人に配分できるようにすべきではないかとの意見が出され、協議の結果、各学科等の申請額は100万円以下とするが、内容的には複数に分けることも可能とすることに決定した。

また、若手研究者に特別の助成を行う必要があるとの意見が出され、プール予算の残額の活用を検討することとした。

さらに今後、学校全体のプロジェクトテーマを決めてはどうかとの意見があり、今後検討することとした。

学 科 長 会 議 議 事 録

日 時 平成17年6月15日(水) 16:00~19:25

場 所 小 会 議 室

欠席者 学生課長(出張)

議 事

1. 平成17年度当初配分予算の概要について

校長から、中期計画中における効率化係数による運営費交付金の減額等に対する対応について、資料に基づき説明があり、了承された。

続いて会計課長から、平成17年度当初配分予算について詳細な説明があり、了承された。

なお、教育研究活性化経費については、新たに現代G P等準備支援経費及び教育方法改善等経費を設ける他、ブレ科研費、若手教員支援研究費及び専攻科経費を継続して実施することとなった。

おって、これら活性化経費の配分を受けた者に対しては成果報告書を求めることとなった。

学 科 長 会 議 議 事 録

日 時 平成17年7月15日(金) 16:10~17:43

場 所 小 会 議 室

議 事

2. 平成17年度教育研究活性化経費配分(案)について

会計課長から、資料に基づき説明があり、了承された。

若手教員支援研究費については、前は全員に配分したが、今回はブレ科研費と同じく、学科長経由で申請し、書類審査等を経て配分することとなった。

また、これらの経費配分を受けた者に対しては成果報告書の提出を求めることとするが、詳細については、今後検討することとなった。

なお、専攻科経費については、ペンディングとし、次回以降検討することとなった。

(出典 平成16年12月, 17年6月, 7月学科長会議議事録)

資料A-1-③-6 評価・改善委員会規則 抜粋

○米子工業高等専門学校評価・改善委員会規則

(設置)

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、米子工業高等専門学校評価・改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、自己評価及び機関別認証評価に関連した本校の教育研究及びその他の諸活動について評価・改善策を答申することを目的とする。

(審議事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項の評価・改善策について審議する。

- (1) 本校の教育目的
- (2) 技術者教育認定申請
- (3) 教育実施体制
- (4) 教職員組織
- (5) 教育内容及び方法
- (6) 学生支援
- (7) 学生の受入
- (8) 施設・設備
- (9) 管理運営
- (10) その他本校における様々な教育活動

(構成員)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 副校長
- (2) 教務主事
- (3) 専攻科長
- (4) 各学科及び一般科目教員のうちから校長が指名する者
- (5) その他校長が指名する者

(任期)

第5条 前条第4号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の出席)

第7条 委員長は、必要あると認める場合は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第8条 委員会は、必要があると認める場合は専門部会を設け、又は既存の委員会に対し、第3条各号に掲げる事項の詳細な調査・検討を指示することができる。

2 専門部会の専門部会長及び委員は、校長が任命する。

(事務)

第9条 委員会の事務は、総務課において処理する。

附 則（平成17年12月22日規則第5号）

この規則は、平成17年12月23日から施行する。

附 則（平成19年4月1日規則第27号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

（出典 米子工業高等専門学校規則集データベース）

資料A-1-③-7 教育方法改善等経費の募集要項

各学科(目)長
各センター長 殿

校 長

教育研究活性化経費（教育方法改善等経費）の配分について

本校における教育方法の改善等への取り組みを一層推進するため、下記のとおり本年度から新たに教育研究活性化経費として「教育方法改善等経費」を配分しますので、平成17年8月26日(金)までに申請書(別紙様式)を添付して推薦願います。

記

配分額 1,000千円

申請方法 ①個人又はグループ当たり500千円を限度とする。

②学科(目)長、センター長を経由して提出すること。

配分方法 ①採択件数は概ね2～3件とする。

②提出があったものについて、必要に応じてヒアリング等を行い、運営会議で審議のうえ校長が決定する。

申請方法 学科(目)長、センター長を経由して提出すること。

提出先 会計課総務係

成果報告書の提出 採択された者(グループ)は、平成18年度中に別に定める成果報告書を提出すること。(紀要、学会誌に投稿した場合は、その(写)を添付すること。)

(出典 総務課資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

産官学連携及び地域貢献を目的とした地域共同テクノセンターを設置し、さらに76社の会員企業から成る米子高専振興協力会と連携した研究支援活動などを行っている。また、(財)鳥取県産業振興機構や米子市と包括連携協定を提携しており、より円滑な産官学連携を行うための体制が整っている。研究実績についても、近年の共同研究・受託研究等の件数や外部資金の獲得金額の増加が顕著である。さらに、研究実績だけでなく、学会等で学生が表彰されており、研究活動が教育水準の向上に貢献している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校では、産官学連携の窓口である地域共同テクノセンターが、「米子高専振興協力会」や鳥取県、米子市、鳥取県産業振興機構、鳥取県産業技術センター等との連携を図りながら、産学連携に力を注いでいる。特に鳥取県産業振興機構や米子市とは包括連携協定を提携し、その関係を強化した。研究活性化を目的とした学内予算措置での支援策として、「教育研究活性化経費」の配分や「地域共同技術研究・開発研究援助」などによる競争的資金の獲得のための基盤作りを行なった。また、新たな連携の掘り起こしのために、教員の研究分野を「産官学連携のススメ」等で広く学内外へ公表している。

以上の活動は、新卒以外の教員の学位取得者数増加、科学研究費補助金への積極的応募、共同研究・受託研究・奨学寄附金及び技術相談の件数の堅調な推移につながっている。獲得した外部資金総額は、平成18年度で約4.6千万円に上っている。また、これら産学連携研究等に学生が参加している場合も多く、技術教育のレベルアップにもつながっている。

各教員の研究活動実績は、「教員業績データベース」によって、校長が直接把握するとともに、運営会議、学科長会議及び評議員会等で公表している。これにより、外部有識者からの意見も取り入れ、校長及び運営会議を中心に研究支援活動の具体的な施策を打ち出す体制となっている。

(4) 目的の達成状況の判断

以上のとおり、目的の達成状況は良好である。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校で開設する公開講座・技術研修会などの地域貢献活動や、図書館や体育館などの施設を地域住民へ開放する地域福祉への貢献活動といった「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を行う目的は、以下のとおりである。

- (1) 各学科の専門性を活かした公開講座・出前講座などを通して、小中学生等にはものづくりや科学などへの啓蒙を行い、一般社会人には生涯学習の機会を与えて地域に貢献すること。
- (2) 学校の施設を開放することによって、設備の有効利用と地域住民の福祉に貢献すること。
- (3) 研究生，聴講生，科目等履修生等の受け入れ制度によって，学習する機会を提供し，その要望に応えること。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

本校では正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、公開講座・出前講座などの校外向け講座、研究生・聴講生等の制度による学習機会の提供、図書館などの施設開放などを以下のような内容で計画的に実施している。

本校で実施している公開講座等の校外向け講座は、『公開講座』『出前講座』『ジョイント講座』の3つに大別される(別添資料B-1-①-1)。

『公開講座』は、主に米子高専の施設設備を活用して行う講座で、受講者の募集・受付を総務課企画協力係で行い、当日の運営も本校のスタッフで行う形態の講座である。平成18年度に実施した公開講座の一覧を資料B-1-①-1に示す。小中学生から社会人まで幅広い年齢層向けの講座を開講しており、内容も理科系のみでなく、図書館情報センターが実施する「文化セミナー(資料B-1-①-2)」などの文化系の講座も開講するなど多様なものである。図書館情報センターの端末室を活用した「初心者のためのパソコン教室」や、ものづくりセンターの設備を活用した「ミニたたら製鉄によるものづくり教室」などでは、地域住民へ学校施設を開放し、有効利用している。平成12年以降、公開講座の実施件数は、年間10件前後と年度ごとに変化はないが、これは多年にわたって公開講座を実施し、年度ごとに内容を改善してきた結果である(資料B-1-①-3)。

『出前講座(資料B-1-①-4)』は、平成17年度から正式に開講した講座である。本校で企画した講座に対して他機関・他団体からの講師派遣依頼を企画協力係にて受付、校外の施設にて実施する形態をとっている。本校は派遣依頼の募集及び講師の派遣のみを担当し、受講者の募集や当日の運営などは他機関が行う形式のものである。出前講座では、幼稚園児から対象とする「こども科学体験教室(資料B-1-①-5)」から、高齢者を対象とする高齢者対象の「あなたの骨は大丈夫(資料B-1-①-6)」まで、前述の公開講座以上に幅広い年齢層へ対応しており、内容も多岐にわたっている。平成18年度の実施件数は43件となり、前年度の16件から約2.7倍に急増した(資料B-1-①-3)。この増加は、小学校の保護者会や公民館などから小学生向け理科系講座への高い需要があり、それに応えた形で講座内容を企画・計画したことによる。

『ジョイント講座(資料B-1-①-7)』は、他機関・他団体と共同で講座内容を企画するもので、受講者募集・広報・会場運営のほとんどを他機関が行い、本校教員が講師を務める形態をとっている。平成18年度までに、米子市児童文化センターなどとの連携により「天体観測会(資料B-1-①-8)」を行ってきた。平成18年度の実施件数が9件と急増した(資料B-1-①-3)のは、他機関との連携が強化されたためで、平成19年1月には、財団法人米子市教育文化事業団との連携協定(資料B-1-①-9)を正式に結び、平成19年度から「天体観測会」以外の新たなジョイント講座も計画している。

これらの公開講座等の計画は、各講座の主担当となる教員もしくは技術職員らが立案し、講座を実施する前年度の2月末頃までに公開講座等実施計画書(資料B-1-①-10)を作成して地域共同テクノセンター(以下テクノセンターと記す)へ提出する。テクノセンターではこれらの計画書と他行事等の日程を考慮して各講座の日程などを調整・決定し、全公開講座等の計画案を作成する。計画

案は学科長会議での承認を得ることで開講が正式決定される。公開講座・出前講座等の情報は、「イベントガイド（資料B-1-①-11，別添資料B-1-①-1）」を作成し校外へ配布している他、新聞のイベント告知欄や本校Webページなどで告知している。

公開講座等の教材費等は受講者の負担となるが、公開講座「中学生のためのやさしい電子制御回路教室」は財団法人マツダ財団（資料B-1-①-12）の助成を、出前講座「こども科学体験教室」の1テーマである“見える見えないひかりの不思議”の教材開発には財団法人理工学振興会（資料B-1-①-13）の助成を受けるなどして受講者の経済的負担を軽減する方策をとった。

上記の講座以外にも、教務部が主体となって中学校3年生を対象とした学校体験入学「オープンキャンパス」を行っている（資料B-1-①-14）。例年、年1回7月下旬に各学科の実験を体験する催しを実施していたが、平成18年度からは、7月と11月の年2回の実施とし、11月には一般科目の模擬授業も行った。

また、経済産業省の委託により鳥取県が取り組んでいる「液晶ディスプレイ関連産業における製造中核人材育成事業」に連動した「高校生向け液晶講座」の教材作成を平成18年度の受託研究として行った（資料B-1-①-15）。この教材は、平成19年度以降に鳥取県主催で実施される講座で利用され、地域貢献に寄与する。さらに、平成19年度には、地域企業人の育成を目的として、メカトロニクス制御技術等を修得するカリキュラム作成と実践を行う「高専等活用中小企業人材育成事業」の計画を中国経済産業局へ提案している（資料B-1-①-16）。

一般市民へ広く開放している本校の施設に図書館と体育館、グラウンド等の体育施設がある。一般市民が図書館で受けることができるサービスは資料の閲覧及び借用等であり、利用可能時間も平日9～20時、土曜日10～15時と本校の学生・教職員と同様のものである（資料B-1-①-17）。本校図書館は、鳥取県立図書館、米子市立図書館と連携し、互いの蔵書を相互に貸出可能なシステムとしているため（資料B-1-①-18）、県東部に位置する遠方の県立図書館から県民が本校の蔵書を利用することが可能である。体育施設については、本校の教育活動に支障が出ない範囲で、市民団体等に開放している（資料B-1-①-19）。

研究生、聴講生及び科目等履修生制度は、学則第58～60条に定めており（資料B-1-①-20）、正規課程の学生以外の方にも本校の授業の受講機会を提供している。平成18年度からは、米子高専振興協力会（資料A-1-①-4～6，8～9ページに前出）の会員企業の社員を対象とした「お試し講座」を開設した（資料B-1-①-21）。この講座では、本校専攻科で開講している講義を無料で受講し、専門技術等を学習する機会を提供、社員個々の技術及び基礎知識のレベル向上、連携強化を目的としたものである。

（分析結果とその根拠理由）

正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、公開講座等の学外向け講座を幅広い年齢層を対象に多様なテーマで計画的に実施し、地域社会に生涯教育の場を提供している。また、図書館などの施設開放や研究生・聴講生などの制度設置により本校のリソースを地域社会に還元することで地域貢献を果たしている。

資料B-1-①-1 平成18年度『公開講座』一覧

地域貢献活動（公開講座・ジョイント講座・出前講座）について

実施日	時間	事業名	対象	実施場所	受講者数 /定員 (人)	満足度 調査 (%)	実施担当者 (◎実施責任者)	新聞 報道	備考
5/27 (土)	14:00~16:00	【第1回】 計算しない数楽	一般	米子市公会堂	31/40	95	G科：大庭		本校関係者(9名) を除く満足度調査
6/17 (土)	14:00~16:00	【第2回】 「ネイチャーライティングの世界」	一般	米子市公会堂	27/40	100	G科：中島		本校関係者(6名) を除く満足度調査
7/23 (日)	10:00~16:00	親子ふれあい科学教室	小学5・6年生 と保護者	本校	59 (30組) /50 (30組)	88	E科：◎桂田・宮田・津倉 C科：岡部・小川和・並村		
7/25 (火)	10:00~15:00	エンジンヨイ科学館	中学1・2年生	本校	39/60	92.3	地域共同テクノセンター(G科) 田中 M科：松本、E科：池田 D科：中山、C科：田原 A科：上山、山田、G科：川邊		
7/26 (水) 7/27 (木)	13:00~16:30 13:00~16:30	中学生のためのやさしい電子制御回路教室	中学生	県立吉吉未来中心 県立県民文化会館	7/10 3/10	100 100	D科：河野・◎中山		
8/1 (火) 4 (金) 8 (火)	9:00~15:00 9:00~15:00 9:00~15:00	中学生のための化学研究体験講座	中学生	本校	17/20	71	C科：◎青木・小田・竹中・山本・坪井		8/14人 8/43人 8/89人 8/81人
8/3 (木) 7 (月) 10 (木)	18:00~20:00 18:00~20:00 18:00~20:00	初心者のためのパソコン教室 ～WindowsXPの基本操作～	一般	本校	3/20	-	図書館情報センター： 新田・◎夏田・岡部・小川寛		
8/5 (土)	9:30~15:00	ミニたたら製鉄によるものづくり教室 ～鉄を造ろう・曲げよう・削ろう～	小学4～6年生 と保護者	本校	26 (13組) /20 (10組)	100	M科：河添	○ NHK鳥取	
8/19 (土) 20 (日)	10:00~16:00 10:00~16:00	中学生のインターネット教室 ～自分のホームページを作ってみませんか～	中学生	本校	8/15	86	図書館情報センター： 新田・◎夏田・岡部・小川寛		
8/21 (月) 24 (木) 28 (日) 31 (木)	18:00~20:00 18:00~20:00 18:00~20:00 18:00~20:00	初心者のためのワープロ・表計算入門	一般	本校	9/20	100	図書館情報センター： 新田・◎夏田・岡部・小川寛		
10/28 (土)	14:00~16:00	【第3回】 「しひびかる破壊」 ～金属疲労のおぼなし～	一般	米子市公会堂	14/40	100	M科：河添		本校関係者(5名) を除く満足度調査
11/25 (土)	14:00~16:00	【第4回】 「イメージングエネレーターの展開」 ～選形能力の強化手段として～	一般	米子市公会堂	10/40	100	A科：西川		本校関係者(5名) を除く満足度調査

※満足度調査 ※満足度調査 ※満足度アンケート(5つの選択肢を固定)を実施し、「大変満足した」「概ね満足した」の上位2つの回答を得た割合を示す。

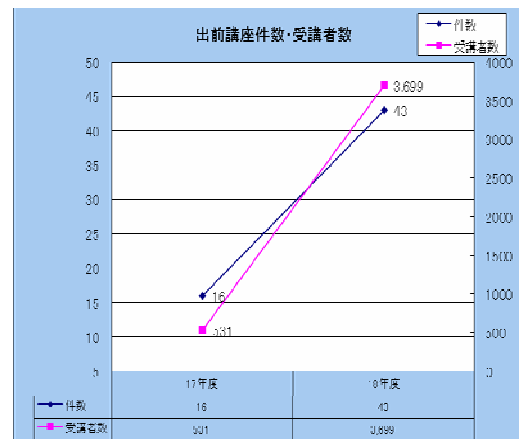
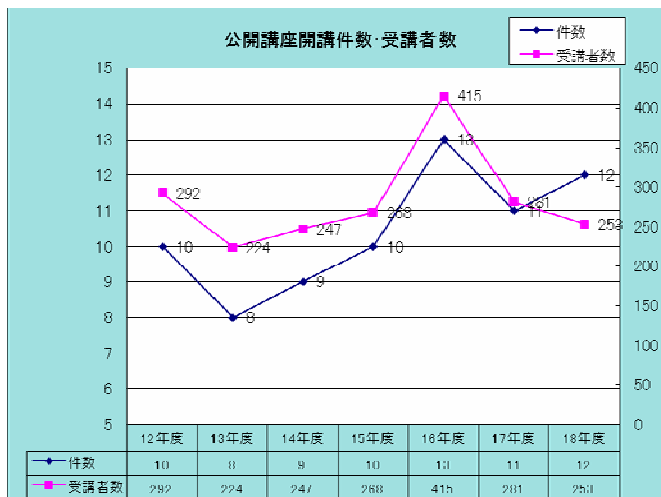
(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動記録)

資料B-1-①-2 文化セミナーポスター



(出典 図書館情報センター「文化セミナー」ポスター)

資料B-1-①-3 各種講座の開講数の推移



ジョイント講座件数・受講者数

	18年度
件数	9
受講者数	227

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動報告)

資料B-1-①-4 平成18年度『出前講座』一覧 抜粋

地域共同テクノセンター関係

地域貢献活動（出前講座）について

実施日	時間	事業名	対象	申込者 (実施場所)	受講者数 (人)	満足度 調査 割合 (%)	実施担当者	新聞 報道	備考
5/3 (水)	14:00～15:30	<講演>「近世地域文化と河本家」 ～王朝文化の受容と所蔵古文書をめぐって～ 子供科学教室	河本家住宅老館者	河本家保存会 (河本家)	50	100	G科 原		
5/6 (土)	10:00～11:00～ 13:00～14:00～	夢みなとタワー	小学生	夢みなとタワー (夢みなとタワー)	180	93	D科: 中山 G科: 岡、田中	○	5/7日本海新聞
6/11 (日)	9:30～11:30	こども科学体験教室	小学5年生と保護者	大津津小学校 (大津津小学校)	28	95	C科: 小川 G科: 田中		
7/7 (金)	8:30～12:30	英語活動(小学校の英語教育)	小学5年生	河崎小学校 (河崎小学校)	50	100	G科: 中島		
7/22 (土)	9:30～12:00	こども科学体験教室	小学3年生とその兄弟、保護者	五十石小学校 (五十石小学校)	120	83	C科: 里村、小川		
7/23 (日)	9:00～12:00	ロボットを作ろう!	淀江小学校1～6年生 (低学年は保護者)	淀江公民館宇田川分館 (淀江公民館宇田川分館)	26	96	D科: 村側、中山		
7/31 (月)	10:00～12:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	誠道公民館 (誠道公民館)	32	94	C科: 岡部 G科: 田中		
8/2 (水)	10:00～11:00	こども科学体験教室	小学1～3年生	伯仙小学校 (伯仙小学校)	34	80	C科: 藤井、小川		
8/8 (火)	14:00～15:30	こども科学体験教室	小学1～3年生	明道なかよし学級 (明道小学校)	22	86	C科: 岡部 G科: 越智		
8/9 (水)	10:00～11:30	こども科学体験教室	小学1～3年生	住吉なかよし学級 (住吉小学校)	31	81	C科: 里村 G科: 越智		
8/18 (金)	10:00～12:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	米子市県地区子ども地域活動支援事業 行委員会(福公民館)	50	86	C科: 里村、岡部		
8/22 (火)	9:30～11:30	こども科学体験教室	小学1～6年生	住吉なかよし学級 (住吉小学校)	30	83	C科: 田原、里村		
8/24 (木)	10:00～12:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	あいみ児童クラブ (余見農村遊学センター)	47	93	G科: 田中、川邊		
8/25 (金)	9:30～11:30	こども科学体験教室	小学生	虹の子保育園遊学クラブ (松江市虹の子保育園)	20	85	C科: 岡部 G科: 岡		
8/26 (土)	10:00～16:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	夢みなとタワー (夢みなとタワー)	114	88	C科: 藤井、田原 G科: 川邊 G科: 藤井	○	8/26日本海新聞
8/27 (日)	10:00～16:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	夢みなとタワー (夢みなとタワー)			G科: 岡、川邊		
9/3 (日)	9:30～11:30	こども科学体験教室	小学4年生	余見小学校 (余見小学校)	41	97	G科: 田中		
9/9 (土)	13:00～15:00	こども科学体験教室	小学1～6年生	倉吉市小幡地区子どもいきいきプラン実行委員会 (倉吉市小幡公民館)	37	95	C科: 田原 G科: 越智	○	9/21日本海新聞
9/17 (日)	10:00～12:10	こども科学体験教室	小学3年生と保護者	中山小学校 (中山小学校)	40	71	C科: 小川		
9/27 (水)	10:45～12:35	世の中で活躍しているロボットたち インターネットを使ったロボットの遠隔操作	気高中学校2、3年生 選択技術履修者	気高中学校 (気高中学校)	34	97	D科: 河野、中山 C科: 里村 G科: 田中	○	9/27日本海テレビ 9/28日本海新聞
10/1 (日)	9:00～11:00	こども科学体験教室	小学2年生親子	小幡小学校(倉吉市立小幡小学校)	72	100			
10/7 (土)	10:00～17:00	伝統建築フェアin倉吉	一般市民	鳥取県 (倉吉市 研農町公園)	150	-	A科: 西川		
10/8 (日)	10:00～17:00	伝統建築フェアin倉吉	一般市民	鳥取県 (倉吉市 研農町公園)	150	-	A科: 松本		
10/10 (火)	13:30～15:30	あなたの骨は丈夫? 一骨密度診断と転倒防止について	高齢者	米子市地域包括支援センター (福米東公民館)	20	100	G科: 西		
10/14 (土)	10:00～17:00	伝統建築フェアin倉吉	一般市民	鳥取県 (倉吉市 研農町公園)	150	-	A科: 稲田		
10/15 (日)	10:00～17:00	伝統建築フェアin倉吉	一般市民	鳥取県 (倉吉市 研農町公園)	150	-	A科: 西川		
10/22 (日)	9:00～12:00	こども科学体験教室	小学4年生と保護者	安来市立高田小学校4年生PTA (高田小学校)	57	93	C科: 田原 G科: 田中		
10/28 (土)	10:00～12:00	科学体験教室	地域住民	境港市誠道公民館 (境港市誠道公民館)	～500	-	C科: 岡部 G科: 川邊		
11/5 (日)	14:00～15:30	「源氏物語」を読んでもみませんか	河本家住宅老館者	河本家保存会 (河本家)	25	100	G科: 原	○	10/29読売新聞 11/4日本海新聞

※満足度調査 ※満足度調査(5つの選択肢を設定)を実施し、「大変満足した」「概ね満足した」の上位2つの回答を得た割合を示す。

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター活動報告)

資料B-1-①-5 「こども科学体験教室」 新聞記事

日本海新聞
2006年(平成18年)5月7日 日曜日

科学の魅力に触れて

境港 米子高専教授ら出前講座



米子高専(米子市彦名町)の教授らが、子どもたちに化学や機械の面白さを教える出前講座が六日、境港市竹内団地の夢みなとタワーであった。液体窒素で凍らせた花を粉々にする実験や、お茶を運ぶからくり人形の実演を体験した子どもたちは、目を丸くしていた。米子高専は、二〇〇五年度から青少年への技術教育などを目的に出前講座を実施。今回は「科学体験」と「ロボット」の二講座を年前と年後の部に分けて開講した。このうち、約四十人が参加した午前中の「化学体験講座」では、田中晋助教授らが氷点下一九六度の液体窒素を使ってさまざまな実験を展開。参加者はシャボン玉を凍らせたがり、風船を冷やして空気がしぼむ様子を観察するなどの実験を体験、驚きの声を上げていた。母親と参加した南部町福成の生田竜也君は、「花びらが簡単にばらばらになるのが面白かった」と目を輝かせていた。田中助教授は「子どもの理科離れが進んでいるので、身近なところから興味を持ってもらうのが目的」と話していた。

日本海新聞 2006年(平成18年)12月18日 月曜日

科学って面白い

花や果物 液体窒素で凍結

講師ら 彦名小で出前講座



米子高専(米子市彦名町)の講師や助手による「名町の児童たちが、液体窒素で凍らせた果物や花を凍らせたがり、風船を冷やして空気がしぼむ様子を観察するなどの実験を体験、驚きの声を上げていた。母親と参加した南部町福成の生田竜也君は、「花びらが簡単にばらばらになるのが面白かった」と目を輝かせていた。田中助教授は「子どもの理科離れが進んでいるので、身近なところから興味を持ってもらうのが目的」と話していた。

白雲を裏感した。「青少年への科学・技術教育、地域社会への貢献・情報発信を」と、同高専が昨年度から実施している「出前講座」の一環。彦名小の四年生約三十人が参加した。同高専物質工学科の田原麻里講師と重村武範助手の指導で、児童たちは果物を使ってオルゴールを鳴らす実験にも挑戦。バナナやニンジンに含まれるクエン酸と、銅板表面の亜鉛との化学反応で電気を発生させ、この電気でオルゴールが鳴ると「聞こえる。すごい」と興奮し、目を輝かせた。オルゴールを聴いた小坂悠起君は「楽しかった。音はずきずきいでした」と感心した様子。里科助手は「小さいころから科学に触れ、興味を持ってほしい」と児童に期待を寄せた。

果物を使ってオルゴールを鳴らす児童たち =16日、米子市内の小学校

(出典 日本海新聞 平成18年5月7日, 12月18日付)


資料B-1-①-6 「あなたの骨は大丈夫？」 新聞記事

日本海新聞
2006年(平成18年)12月7日 木曜日

転倒に注意

骨密度診断

米子の老健で教室



米子工業高等専門学校(同市彦名町)では、地域貢献の一環として「あなたの骨は大丈夫？」と銘打って出前講座をしており、この日は同校の南雅樹助教授が骨密度診断と転倒予防について話をした。教室には、地域の高齢者約三十人が参加。南助教授は、スライドを使いながら骨の大切さを話し、超音波機で一人ずつ骨密度の診断をした。また、主任看護師の土井恵子さんと一緒にグー、チョキ、パー遊びで頭と体の体操を楽しんだ。参加者の一人、能登路順さんとは「骨密度はOKだった」と喜び、「これからは少しでも動くことを心掛け、食べた物を吸収する体にした」と話していた。(福原通信部・建部和宏部長)

骨密度を診断してもらう参加者

(出典 日本海新聞 平成18年12月7日付)

資料B-1-①-7

平成18年度『ジョイント講座』一覧

実施日	時間	事業名	対象	実施場所	受講者数/定員(人)	満足度調査(%)	実施担当者	新聞報道	備考
4/29(土)	20:00~21:30	天体観測会「土星を早よう」 【連携：米子市児童文化センター】	小学5年生~中学3年生と保護者	米子市児童文化センター	15組30名/15組30名	92	G科：竹内		第1回
5/6(土)	19:30~21:00	天体観測会「月のクレーターの写真を探ろう!!」 【連携：米子市児童文化センター】	小・中学生と保護者	米子市児童文化センター	5組16名/15組30名	100	G科：竹内		第2回
6/3(土)	20:00~21:30	天体観測会「木星の写真を探ろう」 【連携：米子市児童文化センター】	小・中学生と保護者	米子市児童文化センター	14/18	71	G科：竹内		第3回
8/6(日)	16:00~20:30	天体観測会 【連携：とっとり花回廊】	小学生と保護者	とっとり花回廊	14組29名/30組60名	88	G科：竹内		
8/20(日)	9:30~10:30	天体観測会「生きた太陽の姿を見よう!!」 【連携：米子市児童文化センター】	小・中学生と保護者	米子市児童文化センター	13/20	85	G科：竹内		第4回
10/7(土)	19:00~20:00	「中秋節の習いごとをみよう会」 【連携：中国庭園燕趙園】	一般入園者	中国庭園燕趙園	0/定員数がない	-	G科：竹内	○	雨天のため、入園者が0名であった。関係者に対し、実施された。 10/14日本海新聞
11/3(金)	18:00~19:30	天体観測会「月のクレーターの写真を探ろう」 【連携：米子市児童文化センター】	小・中学生と保護者	米子市児童文化センター	30/23	87.5	G科：竹内		第5回
3/3(土)	13:30~16:00	「世の中で活躍しているロボットたち」 【連携：米子市児童文化センター】	小学生	米子市児童文化センター	75/75	95	D科：中山	○	3/3NHK鳥取地 3/7日本海新聞
3/24(土)	18:30~20:30	春休み天体観測会「月・金星・土星をみよう!!」 【連携：米子市児童文化センター】	小・中学生と保護者	米子市児童文化センター	20/30	80	G科：竹内		第6回

(出典 平成18年度地域共同テクノセンター
活動報告)

資料B-1-①-8

「天体観測会」新聞記事

日本海新聞

2006年(平成18年)10月14日 土曜日

湯梨浜町引地の燕趙園で、中秋節に合わせた「月をみよう会」が開かれた。あいにくの雨模様で同園の華夏堂での講演会となったが、参加者は月の不思議について学んだ。

中国では中秋節に月餅(げっぺい)の菓子を食べる習慣があった。

「月をみよう会」が開かれた。あいにくの雨模様で同園の華夏堂での講演会となったが、参加者は月の不思議について学んだ。

中国では中秋節に月餅(げっぺい)の菓子を食べる習慣があった。

燕趙園で月見会



竹内助教の月の話に聴き入る参加者たち

.....

同園の中国庭園でも中秋の月見を楽しんでもらおうと企画した。

当日の夜は強い風雨で肝心の月が見えず、予定を変更して庭園内の華夏堂に会場を移し、米子高専の竹内彰助教による「月に関する講義が行われた。竹内助教はプロジェクターを使いながら、月の成り立ちや特徴などを説明。参加者らは興味深そうに聴いていた。

(出典 日本海新聞 平成18年10月14日付)

資料B-1-①-9 「財団法人米子市教育文化財団との連携協定」連携協定書と新聞記事
**米子工業高等専門学校と米子市教育文化事業団との
 包括連携協力協定書**

米子工業高等専門学校と財団法人米子市教育文化事業団は、次のとおり包括連携協力協定を締結する。

(目的)

第1条 本協定は包括的な連携のもと、相互に協力し、地域社会の教育文化の振興・発展に寄与することを目的とする。

(連携・協力内容)

第2条 両者は、前条の目的を達成するため、次の分野について、連携・協力するものとする。

- (1) 地域の特性を生かした特色ある文化の創造と活性化に関すること。
- (2) 自然を愛し科学や芸術を尊び、健康かつ明朗でたくましい児童の育成に関すること。
- (3) その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること。

(有効期間)

第3条 本協定の有効期間は、締結日から1年間とする。ただし、本協定による有効期間満了の日の1月前までに、両者から何らかの申し出がないときは、更に1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(協議)

第4条 本協定に定めるもののほか、連携・協力の具体的事項及びその他必要な事項については、両者が協議して別に定めるものとする。

本協定締結の証として本書を2通作成し、署名押印のうえおのおの1通を保有するものとする。

平成19年 1月18日

米子市彦名町4448番地
 独立行政法人国立高等専門学校機構
 米子工業高等専門学校長
 (署名) 水島和夫

米子市末広町293番地
 財団法人米子市教育文化事業団
 理事長 (署名) 小林道正

(出典 総務課企画協力係資料)



(出典 山陰中央新報 2007年1月19日付)

資料B-1-①-10 公開講座等実施計画書の例

平成18年度 公開講座等実施計画書

イベント名	中学生のインターネット教室				
開催会場	校内（情報教育施設の端末室） その他（ ）				
開催期間	平成18年8月19日（土）～平成17年8月20日（日）（2日間）				
時間帯・時間数	10時00分～16時00分 10時間				
受講対象者	中学生				
募集人数	15人				
傷害保険	必要 不要				
趣旨及び目的	中学生に、楽しみながらインターネットの仕組みやネットワーク利用の方法およびルールとマナーを学んでもらいます。さらに、自分だけのホームページをつくり、画像・動画の作製・編集や CGI を用いたコンテンツ作製についてわかりやすく解説・実習を行うことにより、パソコンおよびインターネットの正しい利用方法を学んでもらうことを目的としています。				
実施主体	米子工業高等専門学校 図書館情報センター （共催： ）				
要求額内訳	区 分	員 数	単価（円）	金額（円）	備 考
	謝 金				
	旅 費				
	物品費				
	テキスト	25	2,500	62,500	市販書籍
	フロッピーディスク	20	100	2,000	
	修了証書	25	200	5,000	
	合 計			69,500	
講師予定者 職名・氏名・時間数	職 名	氏 名	時間数	備 考	
	機械工学科 助教授	矢壁正樹	10		
	電気情報工学科助教授	新田陽一	10		
	物質工学科 助手	岡部勇二	10		
	電気情報工学科助教授	小川覚美	10		
	技術専門職員	遠藤 収	10		
そ の 他	◆継続して実施している場合の前年度との変更点（企画、実施形態等） ホームページ作製を体験し、インターネットの正しい使い方について講義を行う。また、土日曜日の方が参加しやすいとの声があったので、これに応じた。				
	◆その他				

(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-①-11 イベントガイド表紙

独立行政法人国立高等専門学校機構 米子工業高等専門学校 発行：2007.6

イベントガイド

— 平成19年度 — 2007.5 ~ 2007.11

Yonago National College of Technology

公開講座へのお誘い

米子工業高等専門学校は、中学校卒業者を対象にして5年一貫の教育を行うことにより日本の工業を支える技術者を養成することを基本的な目標としていますが、地域社会との連携を深めるために地域の企業を対象にした技術相談や地域の皆様方の生涯学習に資する「公開講座」を実施しています。

本年度の「公開講座」は、一般市民の方を対象にしたパソコン講座をはじめ、近年のいわゆる「理科ばなれ」に対応するため、小・中学生を対象とした科学教室などを用意しました。また、鳥取県東・中部地区の中学生の皆さんを対象に「県立倉吉未来中心」及び「県立県民文化会館」で開催する出張イベントも企画しております。

内容は、いずれも予備知識を必要としない、わかりやすいものとしておりますので、地域のたくさんの皆様方が参加していただけますようご案内申し上げます。

★ イベントカレンダー ★

月	日	イ ベ ン ト	対 象	場 所
5	26	【文化セミナー】「鳥取県におけるバス交通の現状と課題」	一 般	米子市公会堂
6	23	【文化セミナー】「いきいき健康づくり」 ～見直そう生活習慣、予防しよう生活習慣病～	一 般	米子市公会堂
6	24	【公開講座】建築技術者のための建築構造再入門講座 (2級建築士学科(構造)試験対策講座)	建築関係実務者	米子高専
7	22	【公開講座】親子ふれあい科学教室	小学高学年生と保護者	米子高専
		【公開講座】エンジョイ科学館	中学1・2年生	米子高専
7	24	【公開講座】中学生のためのやさしい電子制御回路教室	中学生	県立県民文化会館
7	25	【公開講座】中学生のためのやさしい電子制御回路教室	中学生	県立倉吉未来中心
8		オープンキャンパス(学校見学会)	中学3年生	米子高専
8	2~	【公開講座】初心者のためのパソコン教室(8/27まで)	一 般	米子高専
8	4	【公開講座】リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう	小学3・4年生	米子高専
8	11, 12	【公開講座】レゴ(R)でレスキューロボットを作ろう	中学生	米子高専
8	22	【公開講座】金属の不思議(金属でキーホルダーを作ろう)	小学5・6年生	米子高専
8	24, 25	【公開講座】中学生のためのプログラミング入門 「米子高専 Robocode Cup 開催!!」	中学生	米子高専
9	8	【公開講座】木のあかりづくり体験	中学生	米子高専
10	27	【文化セミナー】「私たちの暮らしと酵素」	一 般	米子市公会堂
11	24	【文化セミナー】「おもしろ静電気のはなし」	一 般	米子市公会堂

★ 公開講座 ★ ～ とっとり県民レッジ連携講座 ～記載内容については変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

大人向けイベントを紹介します (協賛：財団法人 鳥取県産業振興機構)

■建築技術者のための建築構造再入門講座

建築物の耐震偽装が明らかとなり、社会に大きな問題を投げかけています。そこで、地元で建築実務に携わる方を対象に、建築構造設計に関するスキルアップならびに、2級建築士試験(構造)の受験対策を目的とした建築構造再入門講座を実施します。

なお、本講座開設の趣旨は、職業上の知識を身につける学習機会の提供です。

日 時 / 平成19年6月24日(日) 9:00 ~ 17:00

場 所 / 米子高専 専攻科棟 オープンシアター

対 象 / 一般

定 員 / 40人

受 講 料 / 6,400円

受付期間 / 平成19年5月24日 ~ 定員となり次第締切ります。申込方法は最後のページをご覧ください。



(出典 総務課企画協力係発行 平成19年度「イベントガイド」)

資料B-1-①-12 財団法人マツダ財団助成 報告書

事業結果要約報告書		受付番号 No. 2006KJ-009
—科学技術振興関係—		
財団法人 マツダ財団	御中	2006年 8月 日
所属機関名	米子工業高等専門学校	
申請代表者 役職	電子制御工学科	
フリガナ 氏名	ナカヤマ シゲキ 中山 繁生	
	印 (TEL; 0859-24-5033)	
マツダ財団から受けた <u>助成金</u> <u>100千円</u> による事業結果について、 次のとおり報告します。		

助成事業名	中学生のためのやさしい電子制御回路教室 (事業期間; 2006年 7月 26日 ~ 2006年 7月 27日)
-------	--

	計 画	実 施 結 果		
事業内容	日時:平成18年7月26日(水)13:00~16:30 場所:鳥取県立倉吉未来中心 セミナールーム7 日時:平成18年7月27日(木)13:00~16:30 場所:鳥取県立県民文化会館 会議室2 対象:中学生(各10名募集) 内容:まず簡単な電気回路についての説明をおこなう。 次にトランジスタやコンデンサなど主要部品に関する特徴と取り扱い方法について説明し、更に電子回路組立てに用いるブレッドボードについても説明をおこなう。	左記計画通りに開催。参加人数は両会場合計で10名参加 本校教員延べ4名が講師として参加した。 本校学生延べ4名がサポートとして参加した。 [参加者; 10人, 内(小中高の先生; 人)(生徒; 10人)] [講演; 件] [発表; 件] [シンポジウム; 件]		
収入	マツダ財団への助成申請額	千円 100	マツダ財団からの助成額	千円 100
	その他の資金 受講料 @2,000円×20人	千円 40	その他の資金 受講料 @1,950円×10人	千円 20
	合 計	千円 140	合 計	千円 120
支出	○消耗費 電気・電子部品等の消耗品費	千円 60	○消耗費 電気・電子部品, ガラス器具・試薬等の消耗品費	千円 69
	○通信・運搬費 中学校への案内, 応募者への通知等郵送費	10	○通信・運搬費 小学校への案内, 応募者への通知等郵送費	14
	○印刷・複写費 テキスト, ポスター, 報告書等作成費	10	○印刷・複写費 テキスト, ポスター, 報告書等作成費	10
	○賃借料 2会場賃借料	20	○賃借料 2会場賃借料	17
	○旅費・交通費 講師4名分	20	○旅費・交通費 講師2名分	10
合 計	千円 140	合 計	千円 120	

資料B-1-①-13 理工学振興会助成 報告書

平成17年度教育研究助成「研究成果の報告書」

研究題目：熱機関・冷凍装置を実感するサイクル模型教材の製作

米子工業高等専門学校 機械工学科 森田 慎一

図1は、本教育研究で製作したエンジン（熱機関）である。エンジンは、4ピストン4シリンダの α 型スターリングエンジンであり、往復運動から回転運動への変換はロス機構と呼ばれる方式を採用した。シリンダ・ピストン数を4組としたことは、小さいが始動させると意外に迫力があり、強く学生の興味を惹かせる結果となった。また、ロス機構を採用したことで高速回転での実演ができたことも、学生へのインパクトを強めたと思われる。

図2は、本研究助成により製作したクーラー（冷凍機）教材である。クーラーは、冷却部に設置された熱電対温度計による温度データをデジタル温度計によって表示できるように配慮した。クーラーの実演は、数分間で10Kを超える温度低下を実現できたため、デジタル温度表示を見せることでスピード感ある実演を可能とできた。デモンストレーションの最後には、冷却部に触れさせて実際に冷たくなっていることを感じさせた。このことは、さらに強い印象を残す結果につながる事ができたと思われる。

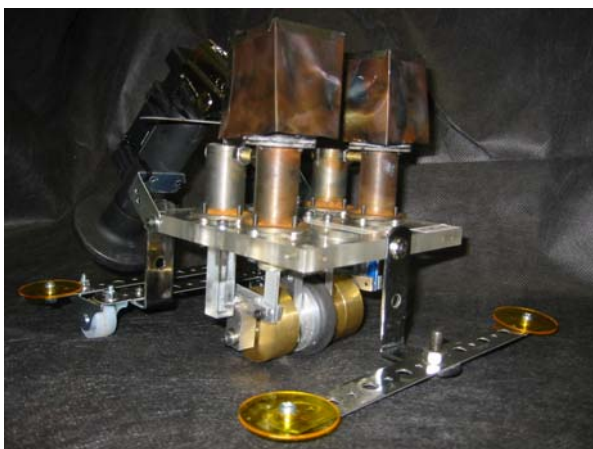


図1 本教育研究にて製作した
エンジン（熱機関）



図2 本教育研究にて製作した
クーラー（冷凍機）

（出典 総務課企画協力係資料）

資料B-1-①-14 オープンキャンパス 募集要項

オープンキャンパス 開催要項

米子工業高等専門学校

1. 趣 旨 本校の概要説明、施設・設備の見学並びに各学科の実験・実習の体験を通じて、本校を理解していただくことを目的とします。
2. 対 象 中学校3年生・保護者・中学校の教職員
3. 期 日 平成18年 7月28日(金)
4. 日 程

	午 前 の 部	午 後 の 部	備 考
受 付	9:30～10:00	12:30～13:00	玄関
校長挨拶・学校概要説明	10:00～10:20	13:00～13:20	合同講義室
学 科 体 験 コ ー ナ ー	10:30～12:30	13:30～15:30	内容及び場所は別紙のとおり
学 寮 見 学	—	15:50～16:10	希望者

* 学科体験コーナーは、学科を変えて午前部・午後部に参加できます。
一学科のみ希望の場合、米子・境港市内の方は午前部、その他の方は午後部に参加してください。

5. 申 込
 - (1) 締 切 平成18年 7月18日(火)
 - (2) 方 法 別紙申込書に必要事項を記入し、中学校で取りまとめのうえ、FAXにて申し込んでください。
 - (3) 申込先 〒683-8502 米子市彦名町4448
米子工業高等専門学校 学生課教務係
FAX 0859-24-5029
TEL 0859-24-5022

6. 無料バス 次のとおり無料バスを運行しますので、ご利用ください。

往 路	米子駅前発	米子高専着	復 路	米子高専発	米子駅前着
	8:50 ⇒	9:10		12:50 ⇒	13:10
	9:25 ⇒	9:45		15:50 ⇒	16:10
	12:00 ⇒	12:20		16:20 ⇒	16:40
	12:30 ⇒	12:50			

 (米子駅前バス乗り場は、別紙「米子駅前バスのりば」のとおり)

7. そ の 他
 - (1) 当日は、学生食堂を営業しておりますが、混雑が予想されますので、なるべく弁当を持参してください。
 - (2) 上履きは、持参する必要がありません。
 - (3) 駐車場を用意していますが、駐車台数に限りがありますので、乗り合わせてお越しくさるようお願いします。
 - (4) 参加申込書により参加を申込みれた生徒、保護者及び教職員の方には、本校の方で傷害保険に加入することになっています。

(出典 学生課教務係資料)

資料B-1-①-14 オープンキャンパス 募集要項

別紙1

オープンキャンパス 開催要項

米子工業高等専門学校

1. 趣 旨 本校の概要説明、施設・設備の見学並びに各学科の実験・実習の体験を通じて、
本校を理解していただくことを目的とします。
2. 対 象 中学校3年生・保護者・中学校の教職員
3. 期 日 平成18年11月11日(土)
4. 日 程

	全日参加者	午後のみ参加者	備 考
受付	10:00~10:30	12:00~12:30	玄関で受付
校長挨拶・学校概要説明	10:30~10:50	12:30~12:50	合同講義室
一般科目授業体験	11:00~11:40		内容及び場所は別紙のとおり
昼 食	11:50~12:50		図書館2F 視聴覚室
学科説明・専門科目	13:00~13:50		合同講義室前に集合
キャンパス見学	14:00~15:00		施設・クラブ活動などを見学
キャンパス自由見学	15:00~16:00		希望者のみ
寮 見 学			

5. 申 込
- (1) 締 切 **平成18年 10月31日(火)**
- (2) 方 法 別紙申込書に必要事項を記入し、中学校で取りまとめのうえ、FAXにて申し込んでください。
- (3) 申込先 〒683-8502 米子市彦名町4448
米子工業高等専門学校 学生課教務係
FAX 0859-24-5029
TEL 0859-24-5022
6. 無料バス 次のとおり無料バスを運行しますので、ご利用ください。
- | | | | | | |
|-----|---------|-------|-----|---------|-------|
| 往 路 | 米子駅前発 | 米子高專着 | 復 路 | 米子高專発 | 米子駅前着 |
| | 9:15 ⇒ | 9:35 | | 15:10 ⇒ | 15:30 |
| | 9:45 ⇒ | 10:05 | | 15:15 ⇒ | 15:35 |
| | 11:35 ⇒ | 11:55 | | 16:10 ⇒ | 16:30 |
| | 12:00 ⇒ | 12:20 | | | |
- (米子駅前バス乗り場は、別紙「米子駅前バスのりば」のとおり)
7. その他
- (1) 当日は、学生食堂を営業しておりますが、混雑が予想されますので、なるべく弁当を持参してください。
- (2) 上履きは、持参する必要がありません。
- (3) 駐車場を用意していますが、駐車台数に限りがありますので、乗り合わせてお越しくくださるようお願いします。
- (4) 参加申込書により参加を申込みました生徒、保護者及び教職員の方には、本校の方で傷害保険に加入することになっています。

(出典 学生課教務係資料)

資料B-1-①-15 「高校生向けの液晶講座」受託研究申請書

受託研究申請書

平成19年2月8日

米子工業高等専門学校長 様

住 所 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地

氏 名 鳥取県知事 片山 善博



独立行政法人国立高等専門学校機構受託研究実施規則を遵守のうえ、下記のとおり受託研究を申請します。

記

1	研 究 課 題	液晶ディスプレイ動作原理の学習用教材の開発
2	研 究 内 容	鳥取県において進めている液晶関連産業に従事する者に対する人材育成事業のうち、高校生等を対象とした教材開発について、液晶ディスプレイの動作原理についての学習用教材について、米子工業高等専門学校が持つノウハウを活用した、研究開発を委託するものである。 (詳細は別添仕様書のとおり)
3	実 施 場 所	米子工業高等専門学校
4	研 究 期 間	経費納付日の翌日から平成19年3月30日まで
5	研究に要する経費	3,500,000円(消費税額及び地方消費税額を含む)
	(うち直接経費)	3,045,000円
	(うち間接経費)	455,000円
6	研 究 担 当 者	米子工業高等専門学校 電気情報工学科・助教授 小川 覚美 米子工業高等専門学校 一般科目・助教授 田中 晋
7	提 供 物 品	なし
8	そ の 他	なし

(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-①-16 「高専等活用中小企業人材育成事業」応募提案書

平成19年 4月 6日

中国経済産業局長 殿

管 理 法 人

機 関 名 称：財団法人鳥取県産業振興機構

代 表 者 役 職：理事長

代 表 者 氏 名：金田 昭



担 当 者 氏 名：加藤賢治郎・新事業創出部長

連 絡 先：0857-52-6724

平成19年度中小企業ものづくり人材育成事業（高専等活用中小企業人材育成事業）応募提案書

記

1. 提案事業名

鳥取県における中小企業の産業力強化のための若手技術者育成事業

2. 事業費総額 7,958,527円

3. 事業実施期間

開始予定日 平成19年6月 1日

完了予定日 平成20年3月31日

(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-①-17 図書館利用案内 抜粋

図書館 利用案内 (一般利用者向)

図書館の一般公開について

地域の皆さんが、生涯を通して行われる学習・調査・研究活動などで必要となる資料等を米子高専図書館にて提供する目的で、本校図書館を本校学生・教職員以外の一般の方々にも開放しています。ただし、一般公開は、本校の教育・研究に支障のない範囲に限られますので、ご了承ください。

閲覧室内の配架については[こちら\(pdf書類 19.7KB\)](#)をご覧ください。

入館手続き

A. 当該年度に初めて、来館された場合

1. 閲覧室内のカウンターにて「利用許可願」に必要事項を記入ください。
2. 「利用許可願」に本人を証明する身分証明書(運転免許証等)を添えて、カウンターへ提出ください。
3. 「図書館利用許可証」を交付します。
*年度が変わると、再度手続きが必要になります。

B. 当該年度、2回目以降の来館の場合

1. 閲覧室へ入室される際、「図書館利用許可証」をカウンター上の箱に入れてください。
2. 入館者カウンターのボタンを一回だけ押してください。(入館者数の計測をさせていただいています。)
3. 退館時には、ご自分の「図書館利用許可証」をお持ち帰りください。

閲覧

閲覧室内では、図書・雑誌・新聞等を自由に閲覧することができます。

- 皆で利用するものですから汚損や破損をしないようご注意ください。
- 万一汚損・破損してしまった場合は、カウンターに申し出てください。
- 閲覧室で利用した資料は、もとの場所に戻してください。

貸出

本校の教育・研究・学習活動に支障のない範囲で貸出をおこないます。

貸出手続き

1. カウンターにて「資料借用願」へ必要事項を記入してください。
2. 貸出を希望する資料等に「図書館利用許可証」を添えて申し込んでください。

- 貸出手続きをしないで資料の持ち出しはできません。
- 「禁帯出」のシールが貼ってある資料は、貸出できません。
- 貸出を要した本や雑誌を汚損・紛失した場合は、同じものを弁償していただきます。
- 貸出を要した本や雑誌は他の人に貸さないでください。
(他人に貸した場合でも、破損等の弁済責務は、図書館から借りた方にあることとします。)

(出典 米子高専図書館情報センターホームページ)

資料B-1-①-18 県立図書館との連携協定書

米子工業高等専門学校図書館及び鳥取県立図書館の図書館利用の相互協力に関する協定書

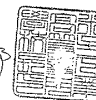
高専図書館と県立図書館は、この協定書を2通作成し、それぞれ記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成16年2月1日

- 1 米子工業高等専門学校図書館（以下「高専図書館」という。）と鳥取県立図書館（以下「県立図書館」という。）は、両館の利用者等の学習、教育、研究活動に資することを目的に、図書館利用の相互協力（以下「相互協力」という。）に関し協定書を締結する。
- 2 相互協力に関する事項は次のとおりとする。
 - (1) 図書資料の相互貸借に関すること。
 - (2) 図書資料の文献複写に関すること。
 - (3) レファレンス（文献の照会・提供、参考調査等）に関すること。
 - (4) 図書館利用者講座に関すること。
 - (5) 横断検索システムに関すること。
- 3 両館は、相互協力を推進するに当たり、次の事項を遵守するものとする。
 - (1) 両館の相互協力は、法令、条例及び規則等に抵触しない範囲内で行う。
 - (2) 両館の相互協力は、それぞれの業務に支障のない範囲内で行う。
 - (3) 両館の相互協力を行う日及び時間は、それぞれの開館日及び閉館時間内とする。
- 4 相互協力を行うための事務取扱については、「高専図書館及び県立図書館相互協力取扱要領」を両館協議のうえ定め、これを所持するものとする。
- 5 この協定書に定めのない事項について、これを定める必要が生じたときは、高専図書館と県立図書館は協議のうえ、定めるものとする。

米子市彦名町4448

米子工業高等専門学校
校長 杉浦 哲郎



鳥取市尚徳町101番地

鳥取県立図書館
館長 齋藤 明彦

齋藤 明彦



(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-①-19 不動産管理規則 抜粋

○米子工業高等専門学校不動産管理規則

平成16年4月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構不動産管理規則（以下「機構不動産管理規則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(不動産の使用)

第11条 不動産管理役は、本校所属の不動産を、その用途又は目的を妨げない場合で、本校の運営上も支障がなく、教育研究その他公共の目的のため必要があると認めるときは、機構不動産管理規則第20条及び第21条の規定に基づき、その使用又は収益を許可することができる。ただし、次の各号の一に該当するものについては、これを許可することができない。

- 一 宗教活動を目的とするもの
- 二 営利を目的とするもの（教職員及び学生の福利厚生のために行う場合及び産学官連携に基づく事業等を行う場合を除く。）
- 三 政治問題に関係のあるもので、学校又は本校教職員の政治的中立性について疑いを抱かしめる恐れのある事項について、討議・決定を行うことを目的とするもの
- 四 違法・不当な内容の討議・決定を行うことを目的とするもの

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料B-1-①-20 研究生、聴講生及び科目等履修生制度について学則より抜粋

米子工業高等専門学校学則

第1章 本校の目的

(目的)

第1条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第10章 研究生、聴講生及び科目等履修生

(研究生)

第58条 本校において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、校長は、教育研究に支障がない場合に限り、選考の上研究生として入学を許可することができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第59条 本校において、特定の授業科目について聴講することを志願する者があるときは、校長は、教育研究に支障がない場合に限り、選考の上聴講生として入学を許可することができる。

- 2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第60条 本校所定の授業科目のうち、一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、校長は、教育研究に支障がないと認められる場合に限り、選考の上科目等履修生として入学を許可することができる。

- 2 校長は、前項の規定により入学した者に対して単位の履修を認定することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 米子工業高等専門学校規則集データベース)

資料B－1－①－21 お試し講座実施要項

専攻科における試聴講生実施要項

1 趣旨

この要項は、本校の専攻科における試聴講生に関し、必要な事項を定めるものとする。2 試聴講生資格
試聴講生として聴講できる者は、次のいずれにも該当するものとする。

- 1) 米子工業高等専門学校振興協会会員企業等に勤務する者
- 2) 学歴は問わないが、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3 聴講期間

聴講の期間については、前期は概ね4月から7月まで、後期は、概ね10月から1月までとする。

4 聴講志願の手続き

試聴講生として志願する者は、次に掲げる書類を聴講しようとする日の2週間前までに校長に願出なければならぬ。

- 1) 試聴講生願書（別紙様式1）
- 2) 現に職を有しているものは、勤務先代表者の承諾書（別紙様式2）又は依頼書

5 聴講の許可

- 1) 試聴講生については、出願書類等で選考の上、校長が聴講を許可するものとする。
- 2) 聴講を許可された者は、聴講開始までに誓約書（別紙様式3）を提出しなければならない。
- 3) 試聴講生が聴講期間中やむを得ない理由で聴講を中断又は中止する場合は、校長の許可を受けなければならない。

6 聴講科目

試聴講生が聴講できる授業科目は常勤教員による講義とする。

7 聴講の回数制限

聴講できる回数は聴講期間中において5回までとする。

8 聴講の人数制限

校長は、一科目において必要がある場合は試聴講生の人数を制限することができるものとする。

9 聴講料

試聴講生の聴講料は無料とする。

10 聴講に必要な教材

聴講に必要な教材は、本校で準備するものとする。

11 他の規則等の準用

この要項に定めるもののほか試聴講生の修学時における必要な事項は、学則及び学諸規則を準用するものとする。

（出典 学生課資料）

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

公開講座等の学外向け講座を実施した際には、受講者の満足度などを調査するアンケートを行っている(資料B-1-②-1)。アンケート結果は、講座終了後に講座担当者が企画協力室へ報告書とともに提出することとしている(資料B-1-②-2)。講座内容等は、アンケート結果などを元に学科長会議及び評議員会において検討を行うと同時に、その結果を各学科等にフィードバックし、次年度の講座内容等の見直しを図っている(資料B-1-②-3)。

平成18年度の各講座における満足度調査の結果と参加者数を資料B-1-①-1(40ページに前出)に示す(別添資料B-1-②-1)。いずれの講座も比較的高い満足度を達成しているが、特に出前講座の満足度は極めて高い。出前講座・ジョイント講座の実施件数が前年よりも大幅に増した結果、総受講者数も増加し、より多数の市民へ学習機会を与えて地域貢献している。定員を設けている公開講座とジョイント講座の参加者数を見ると、児童と保護者で参加する形式の講座は人気が高く、受講者数が定員以上になっているものもある。特に親子参加型公開講座「ミニたたら製鉄によるものづくり教室」は財団法人素材センターのものづくりコラボレーション表彰「奨励賞」を受賞し、高い評価を得ている(資料B-1-②-4)。一方、一般市民、中学生を対象とした講座では、受講者数が定員を割り込む場合が見られる。開講日と中学校の学校行事等との兼ね合いなども一因であるが、講座担当者や担当する学科による内容見直しにより、平成19年度の公開講座ではより魅力的かつ需要のあるものへ講座内容を一部変更した(資料B-1-②-5)。また、イベントガイド(資料B-1-①-11, 47ページに前出)を前年度よりも2カ月以上早い2月末に作成し、学外への広報開始期間を早めるなどの改善策が図られた。これら各講座を実施した教員には、校長裁量経費に公開講座収益金を加えた「公開講座等助成金」を実績に応じて配分し、インセンティブを付与することで、地域貢献活動の活性化を図っている(資料B-1-②-6)。

平成18年度における本校図書館の一般市民による利用状況は、資料B-1-②-7のとおりであり、一定数の利用がある。一般市民によるグラウンド等の体育施設利用については、第二体育館やテニスコートの利用が多い(資料B-1-②-8)。特に6面ある砂入り人工芝テニスコートは近隣に同様の施設が少ないため、比較的高い頻度で高校生の公式試合等を本校で行い、地域に貢献している。

研究生、聴講生及び科目等履修生制度については、平成16～18年度の期間、一定数の利用があり、成果を上げている(資料B-1-②-9)。

(分析結果とその根拠理由)

出前講座の件数増加によって総参加者数が増加し、多数の学習機会を提供することができている。各種講座のアンケート結果では、受講者の満足度が高く、成果を上げている。また、アンケート結果などを元に科会等で議論して次年度以降の内容を変更するなど、改善を図るシステムが機能している。また、一般市民による図書館、体育施設等の利用や研究生制度等の利用も一定数あり、地域貢献における成果を上げている。

資料B-1-②-1 公開講座等アンケート回答用紙の例

こども科学体験教室（米子高専出前講座）アンケート

1. 時間の長さは？

A：短かった B：少し短かった C：ちょうど良い D：少し長かった E：長かった

2. この教室にまんぞくしましたか？

A：とてもまんぞく B：まあまあまんぞく C：どちらでもない D：あまりまんぞくしなかった E：まんぞくしなかった

3. どの実験がおもしろかったですか？（いくつえらんでも良い）

A：液体ちっそであそぼう B：光のふしぎ
C：その他（ ）

4. 今後、どんなイベントに参加してみたいですか？（いくつえらんでも良い）

A：科学実験かがくじっけん B：ロボットのお話でんしこうさく C：電子工作でんしこうさく D：パソコン教室きょうしつ
E：天体観測てんたいかんそく F：建築模型づくりけんちくもけい G：その他（ ）

5. その他、感想がありましたら、自由に書いてください。

（出典 総務課企画協力係資料）

資料B-1-②-2 報告書とアンケート結果集計例

出前講座実施報告書

報告日：平成 19年 3月 5日

学 校 長 殿

（担当講師）

学.....科 一般科目.....

氏.....名 田中 晋・越智 信彰.....

次のとおり、米子工業高等専門学校出前講座を実施しましたので報告します。

出前講座のテーマ	こども科学体験教室
実施責任者 （申込者）	住吉小学校4年1組学級PTA 速水 淑子
実施日時	平成 19年 3月 3日（土） 9時30分～11時20分まで
対象・人数	（対象）児童・小学校4年生31名 （+4年生以外の学年の小学生9名・保護者約18名） （人数）40人
実施場所	住吉小学校 家庭科室（米子市）
出前講座 実施内容	9時30分～11時20分 「液体ちっそであそぼう」 演示実験後、花を凍ら素実験、長風船内の空気を冷やす実験、 凍ったマシュマロを食べる実験を行った。 「見える？見えない？光の不思議」 黒い壁を通り抜ける実験、リモコンの光を見る実験など 参加者に行ったアンケートより 満足度 100%（回答数 35人） ※ テキスト・資料・アンケート集計結果等を添付してください。
その他	

資料B-1-②-2 報告書とアンケート結果集計例

化学体験教室（米子高専出前講座）アンケート @住吉小4年+α

参加者： 小学校4年生1組31名 +他学年9名+保護者約18名 2007. 3. 3

アンケート回収数： 35

参加者の一部にアンケートを実施

1. 時間の長さは？

A: 短かった	B: 少し短かった	C: ちょうど良い	D: 少し長かった	E: 長かった	無回答	回答者数
0人	4人	28人	2人	1人	0人	35人
0%	11%	80%	6%	3%		

2. どの実験がおもしろかったですか？（いくつえらんでも良いです）

A: 液体窒素	B: 光の不思議	C: その他	無回答	回答者数
35人	18人	0人	0人	35人
100%	51%	0%		

3. この教室にまんぞくしましたか？

A: とてもまんぞく	B: まあまあまんぞく	C: ふつう	D: あまりまんぞくしなかった	E: まんぞくしなかった	無回答	回答者数
28人	7人	0人	0人	0人	0人	35人
80%	20%	0%	0%	0%		

4. 今後、どんなイベントに参加してみたいですか？（いくつえらんでも良い）

A: 科学実験	B: ロボットのお話	C: 電子工作	D: パソコン教室	無回答	合計(のべ)
28人	15人	11人	6人	0人	92人
30%	16%	12%	7%		

E: 天体観測	F: 建築模型づくり	G: その他	その他の内容:
14人	15人	3人	なんでも(2), 動物の観察(1)
15%	16%	3%	

5. その他、感想がありましたら、自由に書いてください。

・おもしろかった<6>（おもしろかったです。<4>/とてもおもしろかったです。/おもしろかったです。またお願いしたいと思います。この度も急にお願したのにありがとうございました。）

・たのしかった。<8>（とても楽しかった<2>。/すごく楽しかったです。/楽しかったです。またしたい！/楽しかった。次はハンカチを凍らせたい。/すごく楽しかったです。私も高専に入りたいと思いました。/大人も子どもも、とても楽しめました。貴重な体験で勉強になりました。ありがとうございました。/とても楽しい時間でした。子供がまた参加したいと言っていました。）

・もっと勉強したい

・貴重な体験ありがとうございました。不思議な体験をしてまだまだ知らない事が多ーいなぁと感じました。今日はありがとうございました。

* 一部保護者が記載

(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-②-3 講座内容の見直し

平成 18 年 3 月 23 日

平成 19 年 1 月 12 日

2005 年度 物質工学科科会議事録（第 16 回）

2006 年度 物質工学科科会議事録（第 16 回）

日時：平成 18 年 3 月 23 日（木）15:00～16:20

場所：資料室

出席：澤、坪井、小田、山本、竹中、藤井、田原、松原、大谷

欠席：池田、青木、岡部

書記：小川

日時：平成 19 年 1 月 12 日（金）16:30～17:15

場所：資料室

出席：小田、坪井、池田、山本、竹中、青木、藤井、田原、岡部、小川、大谷

欠席：澤、松原

書記：里村

1. 学科長会議報告 3/15

下記の項目について学科長より報告があった。

2. 平成 19 年度公開講座について

中学生の化学体験講座についてテーマ、担当の報告があった。

7) 平成 18 年度公開講座等について

例年通り実施する（当科：親子ふれあい科学教室、中学生の科学体験講座）。

出前講座は個人的に実施する（学科長より、応援要請があった）。

(出典 平成 18 年 3 月 23 日, 平成 19 年 1 月 12 日 物質工学科科会議事録)

資料B-1-②-4

「ミニたたら製鉄によるものづくり教室」の「奨励賞」受賞

平成18年12月4日（月曜日）

文 教 ニ ュ ー ス 第1910号



表彰式の模様



賞状伝達式（11月21日、校長室）

り組みを続けている。

すの発展を図りながら取
講座とし、今後ますます
って地域の子供達を育む
を通じ、地域が一丸とな
りのものづくり体験学習
話など協力を得た。手作
「くらしと鉄」に関する講
の指導、「和鉄の歴史」、
炉の製作やたたら操業法
員）、河添久美教授には、
生）、永井徹氏（同校卒業
の山本裕二氏（同校卒業
当たつては、和鐵研究家
ものであり、講座開設に
年前から取り組んできた
ンター」が中心となり3
米子高専「ものづくりセ

米子高専は地域連携事業・公開講座「ミニ
たたら製鉄によるものづくり教室」が（財）素形
材センターから表彰「奨励賞」を受けた。
この講座は、小学生の親子を対象とし、親
子での体験学習を通してものづくりへの興味
や関心を喚起することを目的に、「鳥取県民
カレッジの一環」として実施した。

表彰は、素形材技術を使ったものづくりを
通し、ものづくりの面白さ、工業技術の醍醐
味を実感しながら素形材の重要性を幅広く地
域社会に啓発する活動に対して送られるもの
であり、11月17日東京都港区の機械振興会館
において表彰式が行われた。

「ミニたたら製鉄によるものづくり教室」は、

米子高専 ものづくりコラボレーション表彰（奨励賞）

（出典 文教速報 平成18年12月4日付）

資料B-1-②-5 平成19年度開講予定の公開講座一覧

平成19年度 公開講座等開設予定

地域共同テクノセンター
公開講座は、企画協力係まで TEL: 0859-24-5007 FAX: 0859-24-5009 E-Mail: kikaku@yonago-k.ac.jp
文化セミナーは、図書館情報センターまで TEL: 0859-24-5028 FAX: 0859-24-5269 E-Mail (4/1以降): gakujo@yonago-k.ac.jp

申し込み問い合わせ先

No.	イベント名	対象	募集人数	開催期間	時間帯	時間	開催会場	受講料	傷害保険	備考
1	建築技術者のための建築構造再入門講座 〔2級建築士学科(構造)試験対策講座〕	建築関係実務者	10~40	6/24(日)	9:00~17:00	7H	本校	6,400円	不要	新規
2	親子ふれあい科学教室	本校近隣の小学校高学年生と保護者	60(30組)	7/22(日)	9:00~16:00	6H	本校	教材費1,000~2,000円程度	要	継続
3	中学生のためのやさしい電子制御回路教室	中学生	20(各10)	7月又は8月	13:00~16:30	3.5H	県立倉吉未来センター 県立県民文化会館	教材費2,000円程度	要	継続
4	エンジンヨイ科学館	中学1・2年生	60	7月下旬又は8月上旬	10:00~15:00	4H	本校	教材費1,000~3,000円程度	要	継続
5	初心者のためのパソコン教室	一般・社会人	20	8/2(木)~8/27(月) 月・木の7回	18:00~20:00	14H(2H*7)	本校	7,400円	不要	継続(変更)
6	リサイクル工作でインテリリア雑貨を作ろう	小学3~4年生 保護者同伴可	15	8/4(土)	10:00~16:00	5H	本校	教材費1,000円程度	要	新規
7	レゴ(R)でレスキューロボットを作ろう	中学生	10	8/11(土)、8/12(日)	10:00~16:00	10H(5H*2)	本校	0円	不要	新規
8	金属のふしぎ体験(金属でキーホルダーを作ろう)	小学5・6年生 (保護者同伴可)	15	8/22(水)	9:00~15:00	5H	本校	教材費1,000円程度	要	継続(変更)
9	中学生のためのプログラミング入門「米子高専 Robocode Cup開催！」	中学生	20	8/24(金)、8/25(土)	10:00~16:00	10H(5H*2)	本校	教材費2,500円程度	不要	継続(変更)
10	木のあかりづくり体験	中学生	20	9/8(土)	10:00~15:00	4H	本校	教材費3,000円程度	要	新規

No.	イベント名	対象	募集人数	開催期間	時間帯	時間	開催会場	受講料	傷害保険	備考
1	【第1回】 「鳥取県におけるバス交通の現状と課題」	一般	40	5/26(土)	14:00~16:00	2H	米子市公会堂	無料	不要	継続
2	【第2回】 「いきいき健康づくり~見直そう生活習慣、予防しよう生活習慣病~」	一般	40	6/23(土)	14:00~16:00	2H	米子市公会堂	無料	不要	継続
3	【第3回】 「私たちの暮らしと酵素」	一般	40	10/27(土)	14:00~16:00	2H	米子市公会堂	無料	不要	継続
4	【第4回】 「おもしろ静電気のほなし」	一般	40	11/24(土)	14:00~16:00	2H	米子市公会堂	無料	不要	継続

No.	イベント名	対象	募集人数	開催期間	時間帯	時間	開催会場	受講料	傷害保険	備考
1	いろいろなロボットについて学ぼう！	小学生・保護者	30	7月~8月	13:00~15:00	2H	米子市児童文化センター	無料	不要	新規
2	宇宙を見よう！	小学5年生 中学生 保護者	20(10組)	未定	未定	未定	米子市児童文化センター	無料	不要	継続

(出典 総務課企画協力係資料)

資料B-1-②-6 公開講座等助成金規定

運営会議

17.12.21

平成17年度公開講座等助成金の配分について(案)

公開講座、出前講座を実施した教員に校長裁量経費に公開講座の収入額を加えたものから「公開講座等助成金」を配分する。

1. 配分は各講座を実質的に担当した講師に配分する。
2. 配分はポイント制を採用し、次の項目で評価する。
 - (1) 公開講座か出前講座か
 - (2) 開設講座日数
 - (3) 開設時間数
 - (4) 受講者数
 - (5) 受講率 (受講者数/募集者数)
3. ポイントの区分
 - (1) 公開講座

評価項目	ポイント 1	ポイント 2	ポイント 3
開設講座日数	1日	2～3日	4日以上
開設時間数	4時間以下	5～9時間	10時間以上
受講者数	15名以下	16～30名	31名以上
受講率	100%以下	101～140%	141%以上

- (2) 出前講座

1講座3時間以下のものを、ポイントを7点とし、3時間を越えるものは越えた時間一時間毎にポイントに1点加える。

【備考】

- (1) 受講者からの評価が著しく低いものについては、別に審査し、減点する。
 - (2) 受講率が60%以下の公開講座については、総ポイント数に0.8を乗じたものを総計として換算する。
 - (3) ポイント区分に著しい不都合が生じたときには、これを見直す。
4. 配分額
 - ・ 配分の基本となる金額は、校長裁量経費100万円に、当該年度の公開講座の収入額を加えた額とする。
(配分額とし、平成17年度の配分額は、1,538,950円)
 - ・ 配分額を全ポイント数で除した額に、各講師のポイント数に乗じて配分する。
 5. 配分時期
 - ・ 助成金が有効に利用されるよう、配分時期は、当該年度の12月初旬とし、12月以降に行われた対象講座への補助は、次年度回しとする。

(出典 平成17年12月21日 運営会議資料)

資料B-1-②-7 平成18年度一般市民による図書館利用状況

平成18年度一般市民による図書館利用状況

区分	学生	教職員	校外者	合計
入館者数	44,366人		134人	44,500人
図書貸出者数	4,915人	263人	96人	5,274人
図書貸出冊数	9,332冊	577冊	262冊	10,171冊

(出典 学術情報係資料)

資料B-1-②-8 平成18年度一般市民による体育施設利用状況

平成18年度一般市民による体育施設利用状況

期日	時間	場所	人員	使用料
18.11.18	13時～17時	第一体育館	50人	1,980円

(出典 財務係資料)

資料B-1-②-9 平成16～18年度研究生，聴講生および科目等履修生制度利用状況

研究生，聴講生，科目等履修生数

年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
研究生	1(A科)	1(A科)	1(専攻科)
聴講生	0	0	0
科目等履修生	0	0	0

括弧内はそれぞれの所属

(出典 学生課資料)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とし、内容も理系だけでなく文系も含めた幅広い分野の各種講座を実施している。開講件数も多く、正規課程学生以外へ多くの学習機会を提供している。公開講座では本校の施設設備を開放し、有効活用をしている。また、各講座を実施する教員へインセンティブとして一定額の研究費を配分し、正規課程学生以外への教育サービスの活性化を図っている。本校図書館では、鳥取県立図書館、米子市立図書館と連携し、相互に蔵書の貸出が可能である。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校は、鳥取県西部地域に存在する唯一の工業系の高等教育機関として、地域社会の発展に貢献するための地域密着型の開かれた高専になることを目的のひとつとしている。この目的の達成のため、実施に必要な組織（地域共同テクノセンター・図書館情報センター）・制度・改善システム等を設けて、公開講座・出前講座・ジョイント講座・図書館開放・研究生・聴講生等の制度等、正規課程の学生以外に対する教育サービスを計画的に実施している。

本校が開講している公開講座等は、高い満足度を達成しており、開講した講座件数と総受講者数が平成18年度には急増していることから、大きな活動の成果があったことが分かる。これらの講座を実施した教員には、インセンティブとして一定額の研究費を配分し、地域貢献活動の活性化を図っている。また、米子市教育文化事業団との連携協定を結ぶなど、活動の強化にも努めている。

図書館については、鳥取県立図書館などとの連携による相互貸出システムの導入により広く施設・設備を利用してもらうための取組を行っている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的達成状況が良好である。